

令和6年度第3回越谷市立小中学校使用教科用図書選定委員会

令和6年7月9日(火)

越谷市教育センター会議室A B

13:30～16:30

- 1 開 会
- 2 推薦教科書の選定について
 - (1) 「教科書選定」の観点の確認(事務局)
 - (2) 調査部会長より報告
 - (3) 調査部会長への質疑
 - (4) 推薦のための協議
 - (5) 推薦のための投票
- 3 推薦教科書の確認(事務局)
- 4 事務連絡
- 5 閉 会

令和7年度使用中学校教科用図書採択 選定委員名簿

選定委員（14人）

担当部会	学 校 名	職 名	氏 名
保護者	越谷市PTA連合会	花田小学校 PTA会長	小 泉 智 子
保護者	越谷市PTA連合会	中央中学校 PTA会長	田部井 亜津子
有識者	元埼玉県公立小中学校長		石 塚 保 二
国語	大相模中学校	校 長	神 田 博 之
社会	大袋東小学校	校 長	鈴 木 秀 明
数学	北中学校	校 長	萩 原 弘 之
理科	中央中学校	校 長	石 山 秀 樹
音楽	光陽中学校	教 頭	伊 東 猛
美術	大沢北小学校	校 長	岡 村 勝 成
技術・家庭	富士中学校	教 頭	山 崎 京 子
保健体育	南中学校	教 頭	生 方 基 之
英語	新栄中学校	校 長	原 田 肇 子
道德	大袋中学校	教 頭	伊 藤 裕 介
特別支援教育	平方中学校	校 長	木野内 英 雄

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまより令和7年度使用中学校教科用図書に係る第3回選定委員会を開会いたします。

本日司会を務めます事務局指導課、三浦でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

出席委員数を確認させていただきます。本日、13名の委員が出席しておりますので、越谷市立小中学校使用教科用図書選定委員会条例第6条2項の規定に基づき、会議が成立することをご報告させていただきます。

議長は、越谷市立小中学校教科用図書選定委員会条例第5条2項の規定により、委員長の原田様にお願いいたします。

○原田委員長 それでは、しばらくの間議長を務めさせていただきます。委員の皆様、ご協力をよろしくお願いいたします。

議事に先立ちまして、本委員会の会議の公開、非公開に関することについてですが、越谷市立小中学校使用教科用図書選定委員会条例第6条第5項に従って、原則どおり公開という形で進めたいと考えております。委員の皆様、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○原田委員長 ありがとうございます。賛意をいただきましたので、原則どおり公開とさせていただきます。

〔傍聴人入室〕

○原田委員長 本日は、傍聴の方が5名いらっしゃいます。傍聴される皆様におかれましては、入場のときにお配りした資料の中にございます越谷市立小中学校使用教科用図書選定委員会傍聴要領に従って傍聴いただきますようお願いいたします。

議事に入る前に、配付資料と本日の流れについて事務局から確認をお願いします。

○事務局 本日の配付資料は、次第が1枚、また前回から差し替えになりました資料3、前回配付済みの資料1、2、また投票関係資料でございます。

続いて、本日の流れでございますが、次第の裏面を御覧ください。本日は、社会（地理的分野）、社会（歴史的分野）、社会（公民的分野）、社会（地図）、音楽（一般）、音楽（器楽）、道徳、特別支援教育の8種目についてご協議いただきます。その後、理科の1種目について投票を行います。

それでは、協議について、1種目ごとに部会長からの報告、質疑応答、協議という順で進めていただければと思います。

以上でございます。

○原田委員長 これより議事に入ります。

初めに、社会（地理的分野）の協議を行います。

事務局より選定の観点を確認してください。

○事務局 資料3の5ページを御覧ください。前回の他の教科と同様に大きく4つの項目がございます。読み上げませんが、ご確認をお願いします。

以上でございます。

○原田委員長 ありがとうございます。

それでは、今の観点に基づいて、社会部会長より報告をお願いいたします。

○鈴木委員 では、まず社会科の地理分野です。

まず、主体的・対話的で深い学びの観点の点から授業改善が求められております。そのために教科書について、以下の4点について、特に注意深く見ていきました。1つ目、1時間の流れ、章や節などの単元での流れ、2者会的な見方・考え方を働かせる工夫、3つ目、さらに課題を追究したり、解決したりする活動の工夫、4つ目、有益・適切な資料となります。ここでは4、総括を中心に説明していきたいと考えています。

まず、東京書籍の8、9ページを御覧ください。先ほどお話しした導入の活動の中で、どのような工夫がされて、それが本文やまとめにどのようなにつながっているのか、ご確認していただきたいと思います。

第1点、世界と日本の地域構成というところで、写真資料、領土問題での竹島、尖閣諸島にも触れられています。そして、9ページにあるクイズカードを作ろうという形で導入の活動が始まり、探究課題が右下に示されています。その大単元は2つの章から構成されており、次の10ページの真ん中には新しい学習課題、つまり先ほどの探究課題を解決するための学習課題の1つが掲げられています。

また、8、9ページに戻りますと、様々な箇所、小学校で習った言葉を示しており、小中の連携・接続を意識していることが分かります。これはどの教科書会社も工夫されております。

また、25ページの右下には、例えば数学と書いてありますが、他教科との関連されている資料があることを示しております。

次に、20、21ページを御覧ください。ここではまとめの活動となります。先ほどの導入の活動に対しての内容となっております。ここでは今まで学習してきたことを基に見方・考え方を働かせてまとめていきます。子供の作品が提示されていることが、より分かりやすくなっています。このカード作りのほかには、思考ツールを生かしながらまとめができるようになっております。例えばどういうものかという、33ページにはベン図、飛びますと75ページにはマトリックス、そして101ページにはステップチャートなど

多数掲載されております。

続いて、教育出版に移らせていただきます。教育出版の43ページを御覧ください。これが導入の部分で、学習の見通しが表になって分かりやすく配置されております。また、地球的課題についても、どこの学習で取り上げているのかが明確に記載されています。

60ページを御覧ください。学習のまとめと表現では、学習内容が身についたかを確認しながら進めていきます。学習の振り返りをスリーステップに沿って段階的に学習成果を整理し、学習を深めていけるよう配慮されております。

また、1つ戻ると、59ページの下には関連マークがあり、ここの内容が、それぞれの分野とどのようにつながっているのか、関連しているのかがしっかりと分かるようになっています。

また、巻頭の1、2ページ、表紙の裏を御覧ください。小中の連携ですが、小学校での学習を振り返りながら、これからの中学校でどのように学んでいくのかが分かりやすく示されております。

最後に、地球的課題とSDGsとして、世界の諸地域において17の目標の何と関係しているのか、目標マークを掲載し、持続可能な視点を意識しながら学習が深めていけるよう配慮されております。

続いて、帝国書院64、65ページをお開きください。ここでは大きく鮮やかな写真を掲載し、地域の姿を俯瞰でき、関心、意欲を高め、見通しを持って意欲的に学びに向かえるよう配慮されております。

次に、66ページをお開きください。右上には2節を貫く問いが設けられ、この問いが継続できるよう68ページの左にも掲載しております。

また、68、69ページの見開きには、章や節の問いに対する学習課題が69ページ、右下に学習課題に対応した、「確認しよう」、「説明しよう」が配備され、学習の見通し、振り返り活動の基本的な流れが示されております。

また、68ページの下には、小学校や各分野などの関連が示されております。

78、79ページを御覧ください。単元の振り返りの場所になります。学習した知識・技能を白地図で確認し、思考ツールを用いながら学習事項を整理し、対話を通して考えを深めていく流れになっております。

最後に、巻頭ページでSDGsの17の目標とその実現に向けた取組を紹介し、学習全体を通して持続可能な社会の実現を意識づけられるよう配慮されております。

最後に、日本文教出版です。51ページをお開きください。ここでは44ページからの「持続可能な地域を目指して」までの学習を踏まえ、既習の知識と新しい資料を組み合わせ

て問いを導き出すようにしております。そして、学習の見通しを持った学習ができるよう配慮されております。

また、52ページにもありますように学習課題に対しても見方・考え方が示されております。53ページの右下に記載されております、確認・表現で1時間の学習を振り返ることができるようになっております。

60、61ページを御覧ください。まず、60ページにおいて、単元で学習した内容について、地図に沿って確認して知識を整理するとともに、知識を定着できるようにしております。

そして、61ページでは、思考ツールでの提案を基に、自分の考えをまとめるようにしております。さらに、最後には、グループで学び合いながら、深い学びができるよう配慮されております。

以上となります。

○**原田委員長** ありがとうございます。それでは、推薦のための協議に入ります。まず、今の報告を受けて、委員の皆様から質問等はございますでしょうか。はい、お願いします。

○**石山委員** ありがとうございます。地理で、教科書にはたくさんの地図であったり、資料であったり、それら読み取る必要があると思うのですがけれども、地図の読み取り、あるいは図表の読み取りとか、活用について、生徒に、こういう形で身に付けさせていこうというような内容があるのでしょうか。

○**鈴木委員** どの教科書にも地図の読み取り、あるいは資料の読み取りというページが随所にあります。各教科書によって様々なのですが、例えば東京書籍ですと、56ページ、57ページを見ていただきますと、スキルアップという形でグラフの読み取り方等の技術的な記載もされております。

こういったもの、あとは帝国書院は地図のところにもあるのですが、地図帳の地図がばんっと出てきたり、あとは巻頭の10ページなどは、地図帳を活用した学びのページというのも入っております。

また、技能を磨くということで、例えば地形図の使い方、133ページを見ていただきますと、地形図の使い方、読み取り方というのも出てきております。

あとは、本当に各者それぞれ工夫を凝らして、こういうような読み取り方、全部の教科書に載っております。

○**原田委員長** ありがとうございます。

そのほかに質問等がありますでしょうか。

○石山委員 もう一点すみません。

○原田委員長 はい。

○石山委員 この後は、多分地図の報告のほうがあるかと思うのですけれども、地図の教科書と関わりとかあると思うのですけれども、そこは一緒の会社でなくては駄目とか、関連みたいなもの、関係はあるのでしょうか。

○鈴木委員 特に地図帳を見ると、地図帳は各者、ダブっている会社もあれば、ダブっていない会社もありますが、地図帳は地図帳で読み取ることも出てきていますので、一概に同じ会社でないといけないということはないと思います。

○石山委員 ありがとうございます。

○原田委員長 そのほかに質問等ありますでしょうか。

〔発言する者なし〕

○原田委員長 では、皆さんからご意見をいただければと思うのですけれども、では2号委員さん。

○石塚委員 地理では、防災教育も大切な視点、観点があるのですが、今年は能登地方で大きな地震があつて、私どもも大変心配しているのですけれども、改めて日本は災害が多いなと思います。

そこで、各教科書会社では、どのような工夫を凝らしているのか、教えていただければと思います。よろしくお願いします。

○鈴木委員 今日的な課題ということで、各者取り上げております。その中で1つ確認しますと、東京書籍ですと、164ページから防災、地震、あとどのように取り組んでいくのかというのが記載されております。

教育出版ですと、140ページ、特に地域の防災について調べていこうというところで、地域学習を主体にやっております。あと、いろいろやっております。

帝国書院ですと、264ページ、災害から復興したというところもあります。

あと、すみません。日本文教出版では152ページから155ページ、そのところに災害に備えるためということで、防災教育、どの教科書も防災を取り上げております。

○石塚委員 ありがとうございます。

○原田委員長 では、1号委員さん、保護者の立場から何かご意見ございましたら、よろしくお願いします。

○小泉委員 ありがとうございます。地理の分野を学校で学ぶというところから、保護者の目線でお話しさせていただきますと、基本的な知識を教えていただくというのは、もちろんだと思うのですけれども、興味のある子は、知識が欲しいと思えば、結構ネッ

トで検索もできてしまう今は時代だと思うので、クラスみんなで、やはり授業としてやっていただきたいと思うのは、自分の考えをアウトプットする場という、貴重な場だと私は思っているので、そういうところを発揮していただきたいなと思っているのと、あとは地理って、日本に私たちはいるわけなので、自己肯定感ではないですけど、日本のいいところを知れる、いい機会の教科だと思っていますので、何かそういった日本のいいところ、こういうところだよねというところも、ちょっとみんなで共有できるようなきっかけというか、そういう学びというのがあるのか、教えていただけたらと思います。

○鈴木委員 これもどの教科書も共通して言えることなのですが、まず学習、自分自ら進んで学習できるように問題的な学習の解決に取り組む、それを基に、最後にはグループで、自分で学んだことをグループで共有したり、ディベートしたりしながら、さらに自分の学びを深めていくような教科書のつくりになっているかなと思います。

また、日本のよさということで、特に伝統文化、地域の伝統文化の項目も各種載っております。あと、地域のよさ、あと自分たちの地域調べ、今住んでいる越谷の地域を調べようというふうに下ろして調べる單元もありますので、自ら近い、身近な地域から日本全体、そしてさらには世界全体の地域をより楽しく、興味深く調べられる工夫がどの教科書にも載っています。

○小泉委員 ありがとうございます。

○原田委員長 では、時間になりますので、社会（地理的分野）の協議はここまでといたします。次回は推薦のための投票を行います。投票の前に改めて協議の時間を取ります。委員の皆様におかれましては、今日の協議を参考にし、各自でもう一度考えていただき、投票に臨んでいただければと思います。

では、教科書の入替えを行います。

次は、社会（歴史的分野）に入ります。

事務局より選定観点を確認してください。

○事務局 資料3の7ページを御覧ください。

他の教科と同様、4つの大きな項目がございます。また、教科書会社が多くて、資料が2ページにわたっておりますので、御覧いただければと思います。

以上でございます。

○原田委員長 では、社会部会長から報告をお願いします。

○鈴木委員 それでは、歴史について報告させていただきます。

先ほどの地図で申し上げた、1単位時間がどのように扱われ、探究活動があり、最終

的にどのようにまとめていくのかという学習の進め方、併せて資料などがどのように扱われているのかも、しっかり見ていきたいと考えております。

まず、東京書籍の8ページ、9ページをお開きください。これは歴史の扉ということで、これをぱっと見ただけで、子供たちはわくわくすると思います。内容は、小学校の学習の振り返りです。一番最初から最近までの流れが一つ一つイラストで描かれているという方法で表現されています。つまり、小学校で学習した人物や文化財ごとに振り返る活動を設け、中学校での歴史学習にスムーズに導入できるよう配慮されております。

次に飛びます。64、65ページをお開きください。これは章の最初のものです。65ページの上に、その時期や年代について、扉で学習したイラストを使って分かりやすく年表で示されております。また、これから学ぶ11世紀から16世紀までの日本の様子を資料が並べられております。さらに、65ページ右下には、この章の探究課題が示されています。

飛びまして、94から97ページをお開きください。ここでは、「確かめよう」で、単元で学んだ知識を資料や思考ツールなどで確認し、「振り返ろう」で節の問いを解決しています。

そして、96ページにありますように、「深めよう」で思考ツールなどを用いて考えを整理し、探究課題の解決につなげていきます。思考ツールには、96ページにエクスチャート、バッテンチャート、あとは60ページにはウェビングなど、様々な方法で取り組めるようにしております。

次に、教育出版に移ります。教育出版の2ページ、3ページをお開きください。年表の読み解きや時代区分といった小学校の学習を振り返りつつ、これから学ぶ歴史全体を体感することができるようにしております。

また、4から6ページには、「歴史ゲームで遊ぼう」として、小学校での学習や教科書の中で既習事項を用いながら、楽しく歴史学習ができるよう配慮されております。

さらに、8ページでは、「歴史にアプローチ」というコーナーが掲載されています。これは小学校での学習の進め方や見方・考え方を踏まえ、中学校の歴史での学習の進め方につなげるための対応となっており、生徒が歴史的な見方・考え方を意識的に使いこなせるよう何度でも振り返ることができるようにしております。

62、63ページをお開きください。62ページには、学習課題であり、63ページの右下には確認・表現の項目があり、生徒の主体的な学習を促しております。

飛びまして、92から94ページを御覧ください。ここでは章全体の学習を振り返り、年表や地図にまとめる作業を通じて基礎・基本の着実な定着を促しております。また、自ら考察し、集団で表現し合う活動を位置付け、学習した知識や思考の過程を再認識でき

るようになっています。

次に、帝国書院です。帝国書院の26ページ、27ページを御覧ください。この「タイムトラベル」という項目では、その時代の社会の様子を絵画や写真などの歴史的資料に基づいて描き、イラストで時代のイメージを視覚的に捉えられるようになっています。そして、「次の場面を探してみよう」では、その時代の重要な場面を確認しながら、自然と本文や目標に結び付けられるようになっています。

また、作品グリッドとして、この資料の地図帳と同じような形なのですが、地図帳の牽引記号のように左側、写真の左には1、2、3、上にはA、B、C、D、E、Fとなっており、記号を使って位置を確認できるようにしているところが工夫されているかなというふうに思います。

次に、63ページを御覧ください。63ページは、ここは章の最初のところとなります。章の問い、節の問いがあり、66ページには各見開きに節の問いに対応した学習課題を設置しております。

102、103ページを御覧ください。「学習を振り返ろう」では、まず年表を用いながら、章の問いに対する考えをまとめていきます。103ページでは、タイムトラベルと思考ツールを用いた対話を通して章の問いに対する自分の考えを深めていきます。

そして、104ページでは、これまでの考察を踏まえ、どのような特色のある時代だったかを根拠を持ってまとめていきます。中段には、「これからの社会を構想しよう」という項目があり、公民的分野の学習につなげています。

続いて、山川出版社です。70、71ページを御覧ください。見開きの冒頭に学習課題を設定し、黄色枠の発問、最後のステップアップなど、主体的・対話的で深い学びを促し、考える力がつけるよう配慮しております。

また、186、187ページをお開きください。186ページの上段に民撰議院設立建白書が掲載されております。このように高等学校でも学習する資料、歴史的資料が豊富に掲載されております。

次に、152、153ページをお開きください。これがまとめのページになります。その時代全体を俯瞰して考えさせていくよう配慮されております。

また、205ページのように地域からのアプローチとして、地域を通した歴史学習を紹介されております。

続いて、日本文教出版です。6ページ、7ページをお開きください。ここでも小学校で学んだ主な人物や文化遺産を掲載し、そして飛びますが、104ページの左下、「どんな学習をするのかな」で小学校の既習内容を確認し、この時代で何ができるようになれば

よいのかを説明しております。

そして、隣の「トライ」で見方・考え方を着目させながら、学ぶ時代をイメージしていきます。このように小学校とのつながりを大切にしながら学習を進めています。

152、153ページでは、まとめと振り返りとなっております。年表と地図と連携を図り、知識を定着させていきます。そして、153ページにあるように各節の問いを確認し、編、他は章となっておりますが、ここでは編の問いに答えていきます。幾つかのステップを設け、段階的に学習できるよう配慮されております。

続いて、自由社です。自由社の19ページをお開きください。これから学習する時代を、小学校で学んだ人物を中心に紹介しております。

20ページには、学習課題を設定し、24、25ページにあるように「もっと知りたい」のようなコラムが豊富にあり、より詳しく学びたいという意欲を高めています。

64ページをお開きください。調べ学習のページで、修学旅行とリンクさせております。

また、66ページでは、復習問題として一問一答形式で知識を確認し、67、68ページにおいては、問題を解きながら、そして対話とまとめ図を見ながら、時代の特徴がつかめていけるような配慮をされております。

続いて、育鵬社です。14、15ページをお開きください。これは序章で、小学校で学習した歴史上の人物42人の似顔絵を活用しています。構成としては、課題をつかむ、課題を調べる、課題をまとめる、表現するといった問題解決的な学習となっております。

「課題をつかむ」では、96、97ページを見ていただきますと、ちょうど97ページの右上に「鳥の目で見える近世」というふうに書いてあります。鳥の目で歴史の流れを体感し、98、99ページでは、今度は虫の目で、その時代の人々の生活について掲載し、この時代への関心を高められるようにしております。

「課題を調べる」では、100、101ページに見開き学習として1時間ごとに課題と確認、探究が掲載されております。

「学習のまとめ」では、144、145ページにあるように年表で整理し、資料の読み取りなどを通して、多面的・多角的に時代像をまとめられるよう配慮されております。

続いて、学び舎です。36、37ページをお開きください。各章の扉のページには、北極を中心とする世界地図や、その時代の各地の様子を資料等で示されております。

96ページにあるように見出し、ここでは「村に入ってきた秀吉」などの記載となっており、どの見出しも生徒の関心をくすぐるような記載となっております。そして、特色ある図版と技術から、生徒の疑問や問いを引き出し、主体的な学習ができるようにしております。

104、105ページでの「章を振り返る」では、年表や地図の活用を図り、多面的・多角的に考える、話し合う活動を進めていけるよう配慮されております。

最後に、令和書籍です。、ページ数が、資料も併せますと約500ページとなっており、学習内容が充実しております。

6 ページには、世界各国の王朝略年表がついており、世界の歴史と日本の歴史の関係が分かるような構成をしております。また、19世紀からでは、古事記、日本書紀の内容を多く取り上げて、戻りますと、8 ページ、9 ページには、歴代天皇の皇位継承図や、また巻末の日本技術図鑑として豊富な資料を掲載し、我が国の歴史に対する愛情を深められるよう配慮されております。

115ページからのまとめ学習では、表にまとめ、自分の言葉で、その時代の特色をまとめていけるよう配慮されております。

以上、歴史となります。

○原田委員長 ありがとうございます。

それでは、推薦のための協議に入ります。まず、今の報告を受けて、委員の皆様から質問等ございますでしょうか。はい、お願いします。

○伊藤委員 それぞれの歴史の教科書で時代の流れが分かったのですけれども、それが現在の私たちの生活とか、また未来にどういうふうにつながっているのか捉えるのに何か工夫があるか教えてください。

○鈴木委員 それぞれ多くの教科書の出版会社さんは、未来につなげるものとして、例えば東京書籍さんでいきますと、未来ともつながっているということで、全てが大体偉人のものから今に与えた影響というのを考えさせていたり、また未来にアクセスということで、247ページを見ていただくと、ちょっと人権的な平和問題を考えさせたりしているところもあります。

そのように各者それぞれ工夫を凝らして、この歴史が自分たちの未来にどのようにつながっているのか、生活につながっているのか、リンクしながら進めていくところが掲載されております。

あと、各者によって、それを大々的に取り上げていくとか、このようにコーナーで紹介していくとか、そういう違いはありますが、ほとんどの教科書は、そのようにリンクさせながら進められるようになっているかと思います。

○伊藤委員 ありがとうございます。

○原田委員長 ほかにありますか。

〔発言する者なし〕

○原田委員長 では、ご意見を。

○石塚委員 歴史的分野でもお話があったのですが、地域から見た地理的な学習とか、同じように歴史も地域から見た歴史的な学習が非常に大事だと思うのです。

例えば私が住んでいる越谷の大相模地区でいきますと、東町の中に「四条」という地名がございます。これは奈良時代に制定されました「条里制」の名残だろうというようなことをよく言われております。

そんな話を地域の話として、中学生に聞かせると、全然自分とはかけ離れた世界のことかなと思っていたことが、そういう学習に対する興味・関心が深まってくるかなと思うのです。ですから、そういった面で地域の文化遺産とか、歴史の取扱いについて、各教科書ではどのように扱っているか、教えていただければありがたいです。

○鈴木委員 各教科書ともそうなのですが、歴史も地理も、もちろん地理でもそうなのですが、歴史についての自分の身近なところを押さえられるように、例えば東京書籍さんでいきますと、16ページ、身近な地域の歴史という欄が、項目があります。こういうふうに自分の身近な地域を探究していく、あるいは日本文教出版さんでいきますと、12ページ、これも身近な地域の歴史探究、ほかにも他者それぞれあるのですが、このように身近な地域の歴史の探究を通して、より身近な歴史を親しみやすく、自分の住んでいるまちに愛情を注がれるような歴史学習にもなっているかと思います。

○石塚委員 ありがとうございます。

○原田委員長 続きまして、1号委員さん。

○田部井委員 うちの息子が受験をしていたときに世界史と日本史で、今、世界でどんな動きがあって、今、日本ではどんなことが起きたかという問題を見ていて、一応教科書を見直したりして、一目で世界史と日本史の動きとかが分かるようになっている工夫とかはあったのでしょうか。

○鈴木委員 年表でよく出てくることが多いかなというふうに思います。ですので、世界との関わりというところも、とても重要なところだと思いますので、年表を中心に確認していくという会社が多いかなと。よく巻末辺りに年表がついているかと思います。それによって日本の出来事、世界の出来事の比較、場所の整合性が取れるのかなというふうに思います。

以上でございます。

○田部井委員 ありがとうございます。

○原田委員長 そのほかにご意見等ございますか。

〔発言する者なし〕

○**原田委員長** では、時間になりましたので、社会（歴史的分野）の協議はここまでいたします。次回は推薦のための投票を行います。投票の前に改めて協議の時間を取ります。委員の皆様におかれましては、今日の協議を参考にし、各自でもう一度考えていただき、投票に臨んでいただければと思います。

次は、社会（公民的分野）に移ります。

では、事務局より選定観点を確認してください。

○**事務局** 資料3、11ページを御覧ください。

こちらと同じく大きく4つの項目がございますので、御確認いただければと思います。以上です。

○**原田委員長** では、社会部会長から報告をお願いします。

○**鈴木委員** まず、東京書籍でございます。

129ページを御覧ください。冒頭に小学校の振り返りとして、どのようにつながっているのかが分かるように掲載されております。また、各資料に地理、歴史というマークがあり、地理、歴史の教科書に掲載した資料となっております。

130、131ページ、次のページですが、これは導入になります。右に単元を貫く探究課題の設定場面を対話的形式で提示しております。

152、153ページを御覧ください。学習課題が設定され、本文や資料、下にあるチェック、トライ、インデックスやQRコードなど、どの紙面においても定位置に配置されております。

176、177、178、179ページにおいては、学習のまとめとなっております。段階的に取り組むことで単元の貫く探究課題の解決ができるよう配慮されております。また、思考を整理する様々なツールがあり、より多様な活動ができるようになっております。

次に、教育出版です。40ページを御覧ください。章の学習を見通す導入のページになります。漫画やイラストを多用し、資料の読み解きや活動を通じて学習への興味・関心を高められるようにしております。

90、91ページでは、1時間の学習を見通せる写真等を導入し、学習課題に取り組めるようにしております。今時の振り返りとして、91ページ、右下にある確認・表現を学習しながらまとめられるようにしております。本文の下には、小学校との関連、SDGsとの関連についても掲載されております。

126、127、128ページでは、学習のまとめとなっております。ホップ・ステップ・ジャンプとして段階的にまとめられるよう配慮されております。

また、戻りまして、70ページを御覧ください。このような特設ページとして学習内容

と関連を図りながら、今日的な課題をテーマとし、協働しながら多面的・多角的に考察し、表現する活動ができるようにしております。

次に、帝国書院です。30、31ページを御覧ください。「学習の前に」という導入で、学習テーマに関する日常生活のイラストを掲載し、社会の様々な場面を概観する活動を通して興味・関心を持って学習に取り組めるよう配慮されております。

次の32ページでは、章、節の問いを受けた学習課題を各見開きに設置し、見通し、振り返り学習ができるよう配慮されております。

33ページの下には、「確認しよう」で知識の定着、「説明しよう」で思考力、判断力、表現力の育成につなげております。

70、71、72ページでは、学習を振り返る内容となっております。70ページでは、学習した知識・技能を図や表を用いて確認し、71ページでは、学習の前に振り返ったり、思考ツールを用いた学習事項の整理と対話を通して章の問いに対する自らの考えをまとめていけるようにしております。

また、133ページにある「アクティブ公民」では、社会参画を疑似体験できる学習が行えるように工夫されております。

次に、日本文教出版です。6ページ、7ページをお開きください。各章の導入ページには、生徒たちが主役になった漫画により、関心を高め、身近な場面から章の学習内容に関する問いの考え、章の問いを立てる流れとなっております。また、立てた問いの答えを予想することを通して、その後の学習の見通しを持つことができるように工夫されております。

8、9ページでは、1時間の授業を見開き2ページとし、学習課題、見方・考え方で明確に示しています。

また、9ページの下には、確認・表現のコーナーがあり、章や節の問いに答えるための手がかりとなれるよう工夫しております。

22、23ページでは、まとめ、振り返りのページとなります。知識の確認後、章の問いに答える活動に進んでいきます。

また、ポートフォリオを用いて学習を振り返るということで、学びの自己調整ができるよう配慮されております。

また、218ページの「チャレンジ公民」では、現代社会に見られる課題について掲載しております。

また、160、161ページには、「明日に向かって」というコーナーで、社会参画を促すページを載せております。

次に、自由社です。24、25ページをお開きください。25ページの右下に、「ここがポイント」というコーナーがあり、授業で押さえるべき確認事項を示しております。

また、40、41ページには、「アクティブに深めよう」で、歴史的な文化の背景や社会の仕組みについて考察し、個人と社会の関わりを中心に学習を理解できるよう工夫されております。

また、36ページにありますように体育館の使用問題など、身近な学校での事例を掲載し、公正に判断する際の視点が示され、思考力、判断力等の育成ができるようにしております。

また、42ページのまとめでは、学習の最重要語句で確認し、学習の発展で、何を学んだのかを捉えられるよう工夫されております。

68ページにあります、「もっと知りたい」のコーナーを設けることにより、学習内容を深め、発展的な学習を促しております。

最後に、育鵬社になります。38、39ページをお開きください。この導入は、「何々の入口」という言葉で統一されております。章の学習を貫く問いを意識しながら、学習の見通しを持つことができるようにしております。

次の40、41ページでは、1時間の授業を見開き掲載されており、節の課題、今時の学習課題を明確にしております。そして、課題を解決するために確認と探究というコーナーを活用できるよう配慮されております。

74、75、76ページでは、まとめ・表現する内容となっております。学習内容を生かして互いに意見を出し合い、見方・考え方を広げられるようにしております。

76ページでは、学習のまとめとして、大切な学習内容を問題を解きながら再確認できるようにしております。

192、193ページをお開きください。この資料、コーナーのように国や地域の課題や問題を多面的・多角的に理解できるよう両論併記を充実させたコラムを掲載しております。

以上となります。

○**原田委員長** ありがとうございました。

それでは、推薦のための協議に入ります。今の報告を受けて、委員の皆様からご質問等ございますでしょうか。はい、お願いします。

○**萩原委員** 先ほど説明の中で、どこかの教科書会社で見受けられたのですけれども、選挙権年齢、成人年齢の引下げに伴って中学生のうちから主権者意識を高めるというのが、とても重要だと考えるのですけれども、各教科書会社で主権者教育についてどのように扱っているか、教えていただければと思います。

○鈴木委員 主権者教育というと、どの教科書もやはり18歳からの選挙権というところがあって、選挙のところを中心に取り上げているのですが、各者とも特色的なのは、選挙にとどまらず、自分事、社会に参画していく、参画意識を持たせて、他人事ではなく、自分事として捉えるために積極的に自ら関わるができるような資料を豊富にそろえているのかなと。

ですので、各者、学習していくにつれ、自然と主権者教育、主権者意識が備わっていくのかなというふうに思っております。もちろん、選挙、18歳からの選挙権等、法律等も充実、どの教科書も充実した内容となっております。

○萩原委員 ありがとうございました。

○原田委員長 そのほか。はい、どうぞ。

○伊東委員 さっきどこかの教科書会社さんでは、地理とか、歴史との関連性というのが示されていたかと思うのですけれども、そういった関連性というのは、どの教科書会社さんも分かるようになっているのでしょうか。

○鈴木委員 教科書会社によって場所は違うのですが、一番下、ページの下の欄によく小学校での関わり、地理での関わり、歴史での関わり等が掲載されている教科書が多いかと思います。各教科書会社によって場所はまちまちですが、教育出版さんなんかは関連プラスSDGsとか、そういったところも載せておりますし、各者様々他教科との連携、地理、歴史との連携というものも、ここで連携しているよ、どこで連携しているよというのが掲載されているかと思います。

○伊東委員 ありがとうございます。

○原田委員長 ほかにありますでしょうか。

〔発言する者なし〕

○原田委員長 では、2号委員さんのほうから何かありましたらお願いします。

○石塚委員 おととい東京都知事選があつて、大きな社会の関心等注目を浴びましたけれども、その陰に隠れて、実は、埼玉県鳩山町で町長選がありました。28歳の若者が、全国の町村長の中で一番若い、こういう人物が当選したというニュースがあつたわけですが、これもやはり公民に関わりがありますけれども、多面的な、多角的な、先ほどもありましたけれども、歴史的背景とか、地理的条件とそういうものが必ず出てくるのですね。その辺の社会的な事象を公民分野では、多面的・多角的に考察する工夫につきまして、改めて教えていただければありがたいと思います。

○鈴木委員 どの教科書も冒頭で言わせていただきましたが、自分自身、生徒自身がどのように社会と関わっていくのか、これからどのように参画していくのかという意識を持

たせるための内容となっているかというふうに思います。

また、1つの事象に対しても多面的・多角的に考察しながら、自分が社会とどのように関わっていくのかを考え、そしてディベートしながらどんどん深めていく、そのような内容になっているかなど。各教科書によってもコラムになっていたりと、単元の途中でアドバイスの資料が増えたりしております。それが多くの教科書会社さんに社会参画への意識、意欲を持たせる、未来に向けてというようなコーナーもちりばめられているというふうに考えております。

○石塚委員 分かりました。ありがとうございます。

○原田委員長 では、1号委員さん、いかがでしょうか。

○小泉委員 はい。ありがとうございます。いろいろイラストですとか、ケーススタディとかを冒頭に持ってこられて、すごい子供たちに考えさせる工夫をされているなというのが率直な意見で、とてもありがたい作りになっているなと思っております。

今、お話を伺っていて思ったのですが、経済も公民にすごく関わってくると思うのですけれども、今も中学生、高校生が起業するような時代だと思っている。お金の出方というのが、これまでの流れと全然違うなど。そこは子供たちの自立にとって絶対に欠かれないところだと思ってはいるのですけれども、さっき提示していただいた、こちらの日本文教出版さんのほうで、160ページ、「明日に向かって」というところで、「職業について調べてみよう」、この取組がすごく私にとってはいいなと思ったのですけれども、これはコラム的なものなのか、それとも各教科書さんも扱っているような題材なのかというところが、ちょっと教えていただければなと思いました。

○鈴木委員 やはり先ほど言わせていただきましたが、各教科書会社さんによって、どのように社会に参画させていくのか、考えを膨らませていくのかというのは、各教科書会社さんの工夫の一つになるかなと思います。

例えば東京書籍さんでいきますと、目次を見てもらうと、何となく分かるかなと思うのですが、目次の2ページ、3ページの中で、「18歳へのステップ」というのが、黄色いものがあります。東書さんは、そういうような形で意識を高めてくるようなもの、あと帝国書院さんでいきますと、「未来に向けて」というのもありますし、先ほど申し上げた、「アクティブ公民」というところで、もしも無人島に漂着したらとか、裁判員としての裁判の判決を考えようとか、いろいろ工夫して考えさせるようにしているかなというふうに思います。

教育出版さんですと、一番多いのは、途中のものもあるのですが、終わりの章、「私たちが未来の社会を築く」というところでは、章を用いて未来の社会とどのように関わる

かというのを大きく捉えている教科書もあります。様々な教科書会社の工夫が見られるかなというふうに思っております。

○小泉委員 ありがとうございます。

○原田委員長 ありがとうございます。

では、時間になりますので、社会（公民的分野）の協議はここまでといたします。次回は推薦のための投票を行います。投票の前に改めて協議の時間を取ります。委員の皆様におかれましては、今日の協議を参考にし、各自でもう一度考えていただき、投票に臨んでいただければと思います。

では、続きまして地図に入ります。

事務局より選定観点を確認してください。

○事務局 資料3の13ページを御覧ください。

こちら大きく4つの項目がございます。ご確認いただければと思います。

以上でございます。

○原田委員長 では、連続で申し訳ありませんが、社会部会長、よろしく願いいたします。

○鈴木委員 今度は2者になります。東京書籍のほうから申し上げます。

日本の領土問題、そして排他的経済水域の地図を大きく掲載し、東西南北、島、領土問題などを写真と地図を併用して示しております。

ページについては171、172ページ、後ろになります。こういったところをイメージ的に見ていただければと思います。逆に見比べていきますと、帝国書院も、また同じようなページを示させていただきます。同じように掲載されております。帝国書院につきましては197ページ、一番最後のページとなります。これが日本周辺の地図とともに領土問題等も掲載されているかと思えます。

戻ります。次に、文化を理解しやすくなるよう世界のお祭り、世界遺産、伝統的工芸品などを取り上げた地図や写真が掲載されているのが東書になります。

137、138ページを御覧ください。これが世界と日本の文化、いろいろ資料となるページになるかなと考えております。

あわせまして、帝国書院につきましては、173、174ページ、ここが比較的、伝統的な文化工芸品等が載っているページになります。いろいろ各者工夫をしているのかなというふうに思っております。

次に、SDGs等持続可能な開発目標を特集するページは共にありました。東京書籍、8ページになります。このように国際社会が抱える様々な課題を理解できるよう工夫さ

れております。あわせて、帝国書院も8ページ、同じようにSDGs関連の記載がされております。

また、教科書の学習内容に関連した資料が多くあるのも特徴的です。また、教科書にはない資料を見ることによって、この地図帳からいろいろな多面的・多角的に考察する力が育成できるよう工夫されております。両方ともそのようになっております。

また、日本の環境、資源、エネルギー問題、人口等の資料につきましては、東京書籍131ページから統計資料等が載っております。

あわせまして、帝国書院につきましては、159ページ辺りから日本の環境、資源、エネルギー問題等の資料のページがたくさん載っているかと思います。

このところ、ページを2つとも見ていただければと思うのですが、東京書籍につきましては、デジタルコンテンツに接続するためのQRコードを上段に掲載しております。もしお時間があったら、いろいろ見ていただければと思います。

また、帝国書院につきましても、QRコードを掲載するとともに、SDGsの関連マークもここでは記載されております。

次に、東京書籍のところでは、今開いた131、132ページのところにハチマークのものがあるかと思います。こういうように地図帳を活用できるコーナー「ビーズ・アイ」が設けられていて、どのように見ていくのかというアドバイスが載っております。

また、帝国書院さんにつきましても、159ページでは、「9. 地図で発見」ということで、どのような視点で見ていくのかという記載もされております。

あとは、様々工夫をされているところなのですが、本当にどの教科書会社さんも詳しい資料満載で、この地図を見ているだけで、私なんかはわくわくしているところでございます。

早口ですが、以上でございます。

○**原田委員長** ありがとうございます。

では、推薦のための協議に入ります。今の報告を受けて、委員の皆様から質問等ございますでしょうか。はい、お願いします。

○**生方委員** どうしても地図帳というのは、視覚的な部分が大きいと思うのですが、見やすさとか、調べやすさとか、その辺の特徴というのはございますでしょうか。

○**鈴木委員** 見やすさと申しますと、どちらもいいと思うのですが、やはり資料というか、できれば地図を見て、その場所がイメージできるような地図帳は、生徒たちにとって、どれが、どちらのほうがいいのかな。イメージしやすい地図、そしてこの地図帳からだけでも想像できる資料がいいのかなというふうに思います。

そう見ると、本当にどちらも甲乙つけがたいというところがありますので、どの教科書も表記の好き嫌いもあるかと思います。先ほど申し上げた、地図の牽引記号をとりましても、東書さんでは小さい丸でもあったり、帝国さんだったら白抜き数字にしてみたり、どちらが見やすいかなというのがあります。そういったところで、本当に甲乙つけがたいなという印象です。

○生方委員 ありがとうございます。

○原田委員長 ほかにありますでしょうか。はい、お願いします。

○神田委員 この地図帳というのは、地図の資料だけではなくて、当然統計資料であったり、グラフなど、ほかの様々なものが今掲載されているなというふうに今少し見ることができたのですけれども、この辺の取扱い方の違い等は、この2者は、特徴等はあるでしょうか。

○鈴木委員 どちらも教科書とリンクされているような資料を掲載されていると。また、帝国書院につきましては、ページの一番上に調べ学習ということで、教科書と一緒にどのような課題を設定して取り組めるようにしているところ、また東書さんでいくと、恐らく資料のタイトルの横に公民とか、歴史とか、いろいろなマークが入っているかと思います。そういうことによって地理、歴史とのリンクがどうであるかというのでも表記されていますし、帝国さんでいくと、一番上ではなく、項目の中に、たまに歴史、公民というマークがつながっているのだという表示もされております。そういった意味で、本当に幅広く関わりを持たせながら掲載されているかなというふうに思っております。

○神田委員 ありがとうございます。

○原田委員長 ありがとうございます。2号委員さん、いかがですか。

○石塚委員 地理的な技能を習得させるための工夫というのは、2者はどのようにされているのでしょうか。

○鈴木委員 やはり私なんかもよく見させてもらうのですが、一番の工夫点は冒頭の巻末のページで、この地図を見ようとか、この地図の使い方というのが、どういうふうに見ていったらいいのかというのが分かりやすく示されているのが端的かなというふうに考えております。どのようにこの地図帳を使いこなしたらいいのかというのが、それぞれ各会社工夫して載っていますので、QRコードを使ってみようとか、いろいろなデジタルコンテンツ、デジタル地図、そして主題図いろいろ統計資料等も併せてこの地図帳を活用して地理的な見方、地図の有効な活用の仕方というのを学んでいくというのが出てくるのかなというふうに思っております。ですので、地図の活用、最初の冒頭部分をしっかりと押さえた学習を展開されることを望みたいと思います。

○石塚委員 分かりました。ありがとうございました。

○原田委員長 1号委員さん、いかがですか。

○田部井委員 先ほど地理のところ、地図と教科書が、あまり意識していないという話が、教科書の会社と地理の地図の会社でそういった話があったと思うのですが、私はその点がちょっと気になっていたもので、それがお聞きできてよかったなというのがあるのですが、こちらは20ページぐらい多いのですけれども、重さとか厚さとか、色々あまり関係ないのかというのがちょっと気になりました。

○鈴木委員 資料とか、そういったところになるかなと思います。また、東京書籍さんなんかは、前までは、これで大きくなったんですね。前までは、もうちょっと小さいところで、東京書籍さんなんかは、もうちょっと地図の範囲が広がったとか、大きくなったということも挙げられるかなと思います。

ですので、一番は、ページ数もそうなのですが、いかにこの地図を通して子供たちがイメージが出てくるかというところで、もし見比べることができれば、同じようなページを各者開いて、どっちのほうが見やすいかな、どういうふうに勉強になるのかなというのを比べていけると、より違いが分かってくるのかなというふうに思います。

○原田委員長 よろしいですか。

○田部井委員 はい。

○原田委員長 では、時間になりますので、社会（地図）の協議はここまでとさせていただきます。次回は推薦のための投票を行います。投票の前に改めて協議の時間を取ります。委員の皆様におかれましては、今日の協議を参考にし、各自でもう一度考えていただき、投票に臨んでいただければと思います。

ここで10分間休憩を取らせていただきます。

〔休 憩〕

○事務局 では、時間になりましたので、始めさせていただきます。

○原田委員長 次に、音楽（一般）の協議に入ります。

事務局より選定観点を確認してください。

○事務局

大きく4つ項目がございます。御確認いただければと思います。

以上でございます。

○原田委員長 では、音楽部会長から報告をしてください。

○伊東委員 では、説明させていただきます。

音楽のほうでは資料を縦に読みながら教科書ごとに説明をさせていただきます。まず、

教育出版から説明します。「1. 内容」についてです。まず、1つ目の観点では、各学年学習段階に応じた教材が「学習マップ」というもので示されて各教材を配置しながら学習の理解を深めることができるような教材配置の工夫がされています。

「2・3 上」の8ページを御覧ください。曲の形式を示されている教材は3曲あり、その歌唱教材で学んだ形式についての知識を矢印の先にある交響曲第5番に生かしていただけるように学習マップを見ることで、それぞれの教材の系統性を理解することができるようになっております。

2つ目の観点については、いくつかの教材に「アクティブ」というページを示し、生徒たちが目標達成に向けた具体的な視点を意識しながら、主体的に学ぶことができるように工夫されています。

教科書の14ページを御覧ください。教材の学習のねらいに到達するためのヒントをキャラクターの吹き出しで掲載し、生徒たちの声を生かしながら主体的に学習ができるように工夫がされています。また、各教科書の歌唱の教材の一つ一つに「どんな特徴があるかな」という項目を設定し、共通事項として教材に対する理解が深められるように工夫がされています。

3つ目の観点では、巻頭に「With My Heart」というものと作者に思いに触れるというページを掲載し、現在活躍している演奏家とベートーベン、シューベルトなどの著名な作曲家の言葉やエピソードを掲載し、歴史を超えて音楽に関わる音楽家の思いが感じられるように工夫されています。

2ページと4ページを御覧ください。2ページでは、「この曲を聴きたい、演奏してみたいという気持ちを大切に」という演奏家の思いを、4ページでは「芸術だけが私を踏みとどまらせた」という作曲家の思いを隣のページに掲載し、両者の関わりによって芸術が生まれ出ることが感じられるような工夫がされています。

4つ目の観点では、生徒たちの発達段階に配慮し、学びの系統性を踏まえた学習ができるよう歌唱曲や様々なコーナーが掲載されています。

教科書15ページを御覧ください。「シング・シング」というページでは、歌う前のストレッチや母音の発音などを掲載しており、歌唱技術を習得するための手だてが掲載されています。

次に、32ページを御覧ください。創作教材は、「音のスケッチ」というコーナーが掲載されており、小学校や1年生のときに学習した内容を踏まえながら、中学校の創作の学習を発展させることができるように工夫がされています。

5つの観点については、64ページを御覧ください。著作権などの生徒たちの実際の生

活に関わる内容が紹介されている、「私たちの暮らしと音楽」というコーナーを掲載し、社会の中の音楽の働きを理解できるように工夫されています。

次に、「2. 資料」となります。1つ目の観点では、各教材に「まなびリンク」という2次元コードが配置されており、生徒たちが持っているタブレットで説明動画や板書を見ることができるように工夫されています。今までは大型テレビに映された動画を全員で視聴する形で学習しておりましたが、「まなびリンク」を使用することによって、生徒たちは手元で必要な情報を見ることができるようになります。

2つ目の観点は、歌唱教材のほとんどが見開きページとなっており、歌唱するときに活動に集中できるように配慮がされています。

また、鑑賞の学習では、教材で演奏されている楽器の写真を様々な場所に掲載しており、教材の内容の理解だけでなく、演奏している場面をイメージしながら学習できるように工夫されています。

次に、「3. 表記・表現」ですが、教科書の楽曲すべての音符や記号、歌詞が適切な大きさと記載されています。鑑賞教材では、活動のポイントに合わせて必要な譜面が掲載されており、理解が深まるような配慮がされています。

最後に、「4. 総括」ですが、教材は全て系統的に学習できるように配置されており、既習内容を意識しながら、3年間にわたって歌唱、鑑賞、創作の3つの観点を学習できるように工夫されています。また、発展学習のコーナーも配置し、音楽の学習と教科の学習の横断的な学習が進められるように工夫されていて、小学校での学びを引き継いだ学習が展開できるように工夫されています。

以上で教育出版の説明を終了いたします。

続いて、教育芸術社に移ります。「1. 内容」についてです。1つ目の観点では、学年の学習段階に応じた題材や教材が段階的に配置されています。

「2・3 上」の8ページを御覧ください。各学年の学習内容のコーナーでは、各教材の課題が示されていて、それぞれの教材の学びの意図を確認することができるように工夫されています。それぞれの教材のねらいが3つの観点に対してどのように関わっているのか、生徒自身で把握できるように工夫されています。

2つ目の観点では、生徒たちの表現力を深めていくため、「学びのコンパス」というページを配置し、ここで掲載されているワークシートを進めていきながら、教材のねらいに迫れるように工夫されています。

16ページを御覧ください。ここでは前ページに学習した混成3部合唱「翼をください」の共通事項を意識しながら、パートの役割を学ぶことができるように工夫されています。

また、完成した表を周りの友達と共有し、友達の意見を参考にしながら自らの表現を深めることができるようになっていきます。

3つ目の観点は、巻頭に生徒たちにもなじみのある、様々なジャンルの音楽家のメッセージを掲載し、様々な音楽活動に意欲的に参加できるように工夫されています。

2ページを御覧ください。ここではテレビ等で活躍している歌舞伎役者の松本幸四郎さんと市川染五郎さんが紹介されています。

また、4ページには、人類進化学者の海部陽介さんを紹介し、なじみの薄い日本の伝統音楽や世界の民族音楽を紹介しながら、幅広い音楽に親しめるように工夫されています。ちなみに「1」の教科書では、上白石萌音さんや宇宙飛行士の野口聡一さん、「2・3 下」の教科書はピアニストの反田恭平さん、アートディレクターの森本千絵さんが紹介されています。

4つ目の観点ですが、歌唱教材では、現段階に応じた声域や歌詞の内容を考慮した教材が提供できるよう配慮されております。また、表現の基礎的な能力を高めることを意識したページも掲載されています。

17ページを御覧ください。ここでは「マイボイス」というコーナーを掲載し、生徒たちが曲の構成やパートの役割などを学習し、ここをこういうふうに歌いたいという思いや意図を持つことができた中で、それを歌唱で表現するために必要となる基礎的な技能を高められるように工夫されています。キャラクターの吹き出しを用い、生徒たちが感覚的に捉えることができるようになっていきます。

また、創作の教材では、小学校における既習内容を生かして学習内容を進めることができるように工夫されています。

教科書の30ページを御覧ください。ここで掲載されている「マイメロディー」では、小学校で学んだリズム創作でできた作品に音階の音を組み入れながら旋律を演奏することができるように工夫されています。

34ページに掲載されている「レッツ・クリエイト」のページでは、創作でできた作品を重ねてリズムアンサンブルができるような題材を割り当て、友達と協働的に学習を進めながら、学習内容を深めることができるようになっております。

5つ目の観点については、教科書91ページを御覧ください。そこに掲載されている、「生活や社会の中の音楽」というページでは、ワークショップの活動や時代の変化によって音楽を味わう方法が変わっていくケースを紹介し、社会の中での音楽が、様々な形で変化しているということを学習できるように工夫しています。

2つ目、「2. 資料」となります。1つ目の観点ですが、これも様々な教材の2次元コ

ードを配置し、生徒の手元で現実的な情報を得られることができるようになっています。

また、音楽の教材では、演奏者からアドバイスを掲載して、生徒たちの興味・関心が高まるような配慮がされています。

2つ目の観点では、各教材にキャラクターを配置し、吹き出しに教材のポイントを掲載しながら、生徒たちが教材のねらいを多角的に把握できるように工夫されています。

また、「3. 表記・表現」ですが、表記については、文字や音符が適切な大きさと表記されています。全学年の教科書の巻末に音楽の約束のページを設け、そのページを見ながら生徒たちが主体的に学習できるように工夫されています。

最後に「4. 総括」ですが、小学校での学習内容を考慮した教材が配置され、系統的な学習できるように工夫されています。また、鑑賞教材のページの中には、「この頃、日本では」というコーナーを設け、教科との関連が図れるように工夫されています。

以上で音楽（一般）の説明を終了いたします。

○原田委員長 ありがとうございました。

では、推薦のための協議に入ります。今の報告を受けて、委員の皆様から質問等ございますでしょうか。はい、お願いします。

○岡村委員 授業において対話的な学びを実現するために各教科書で意識されているところはございますか。

○伊東委員 各教科書とも友達の意見を参考にして、自分の考えを発展させていくことができるような課題が設定されています。

教育出版では「2・3 上」の34ページを御覧ください。お手元のページでは、平調子という音階を使って旋律を創作するのですが、そこでは友達と交流したことをまとめる欄が設定されているなど、友達と作品交流をしながら学びを深められるように配慮されています。

教育芸術社では、「2・3 上」の30ページを御覧ください。「マイメロディー」というページで、創作の活動をした後、これも同じく意見を交換しながら曲を完成していく、自分の出来上がった気持ちのこもった曲を意見交換しながら完成させていくというような記載がされています。

以上です。

○原田委員長 ありがとうございます。ほかにありますか。

〔発言する者なし〕

○原田委員長 では、2号委員さん、いかがですか。

○石塚委員 演奏とか、歌唱というのは、鑑賞というのは誰でも楽しめると思っているの

ですね。ですから、それぞれの教科書会社で鑑賞をするための取扱いというのはどんな工夫がされているのでしょうか。

○伊東委員 やはりどうしても子供たちは、歌唱であるとか、楽器を演奏するというのは楽しいので、そちらに興味湧いて、なかなか鑑賞に取り組むというようなところは、難しいところではあるのですけれども、それも把握して、各教科書会社がいろいろ工夫しているなということは感じています。

どちらの教科書についても写真やイラストですね、それを多く掲載して、生徒たちの意欲が高まるような工夫がされているなというふうに感じます。

教育出版の「2・3 上」の40ページをお開きいただきたいのですけれども、交響曲第5番を学習するページとなっています。これは形式について学習する、これも子供たちとしては、どうしても難しく思ってしまうところではあるのですけれども、細かく区切って掲載して、そしてその部分にそれぞれのポイントを掲載しています。

また、この曲を学習するポイントとしては、「動機」という部分があるのですけれども、そこについても「ここに注目」というフレーズをつけて生徒たちが主体的に学べるように工夫しています。

また、教育芸術社は「2・3 上」の40ページを御覧いただきたいと思うのですけれども、同じように交響曲第5番を学習しています。この教科書を見ていただくと、スペースを大きく取り入れて、見やすく掲載しているという感覚を感じます。キャラクターの吹き出しを使いながら、生徒たちが学習する視点を示しています。また、掲載しているページを多く取り入れ、そのページでは形式についてとか、それからオーケストラについて、それから指揮についてという形で、順番に掲載されており、関連内容の学習が系統的にできるように工夫されています。

以上です。

○石塚委員 ありがとうございました。

○原田委員長 1号委員さん、いかがでしょうか。

○小泉委員 ありがとうございます。音楽は、芸術を楽しむという教科でもあるとともに、私なんかは音楽を聞いて癒やされるという、ちょっと一面もあるのですけれども、今ちょっと心の病とか、いろいろそういう感じが多い中で、そういう癒やしとして捉えるような、何かそういった学びというのは、そういった視点というのがあるのかなというのが、ちょっと率直な疑問なのですけれども、いかがでしょうか。

○伊東委員 ありがとうございます。癒やしというと、それぞれいろいろな捉え方があるかと。すごくゆったりとした気分になることも、教科書を使いながら聴くというような

ことができるかなとは思いますが、なかなかそこは曲数も限られているところでもありますので、難しいところではあると思うのですが、でもそれぞれの教科書ごとに、一般の生活に基づいた曲が、いろいろ紹介されているなというところは感じています。

例えば、教育芸術社などだとミュージカルを紹介していたりとか、それから教育出版では62ページのところで、「アルルの女」という、これは実際には、今まではあまり取り扱ってはなかったのですけれども、あまり子供たちは聞いたことがない曲を取り上げることがあるのだという発見があり、それがまた癒やしにつながっていくのかなとも感じられます。

○小泉委員 ありがとうございます。

○原田委員長 ありがとうございました。

では、時間になりますので、音楽（一般）の協議はここまでといたします。次回は推薦のための投票を行います。投票の前に改めて協議の時間を取ります。委員の皆様におかれましては、今日の協議を参考にし、各自でもう一度考えていただき、投票に臨んでいただければと思います。

では、音楽（器楽）の協議に入ります。これも、続けて音楽部会長から続けて報告をお願いします。

○伊東委員 それでは、音楽（一般）同様、教科書ごとの説明をさせていただきます。

教育出版から説明をさせていただきます。「1. 内容」についてです。1つ目の観点では、楽器が管楽器、弦楽器、打楽器のジャンル別に掲載されており、それぞれの段階に応じて課題が明確に表示されています。

器楽の教科書6ページを御覧ください。まずは、学習するページですが、左側のページにリコーダー、篠笛、尺八の管楽器が、右側のページにはギター、箏、三味線の弦楽器と、その下に打楽器が掲載されており、和楽器と西洋楽器の区別なく楽器が配置され、同じ種類の楽器の中の音色の変化があることを把握できるように工夫されています。

次に、10ページを御覧ください。各教材のページの上のほうに学びのねらいを明確に示し、課題を意識しながら学習できるように工夫されています。

2つ目の観点ですが、30ページを御覧ください。生徒たちが様々な楽器を学習する際、ヒントとなるように「表現の仕方を調べてみよう」というコーナーが配置されています。同じ楽器ではあるけれども、音色や曲調が全く違ったものがあるということを生徒が自ら気付くことができるようになっています。

また、各自が学習した内容を「話し合おう」のコーナーで、協働的な学習を通して深められるように工夫されています。

また、教科書後半の「合わせて演奏しよう」のコーナーでは、前半の基礎的な学習で身に付けた演奏技法や音楽（一般）で学んだ内容を生かしながら、仲間とともに合奏を通して協同的にアンサンブルを楽しめることができるように工夫されています。

3つ目の観点ですが、各楽器の切り替わりの部分には「発展」というコーナーを設置し、生徒たちの学びが深められるようにされています。

31ページを御覧ください。30ページで確認した楽器以外の諸外国の楽器を資料として写真で示し、様々な国の音楽文化を感じ取りながら、学習のまとめができるようになっています。

また、巻頭には、日本を含めた様々な民族音楽が写真つきで紹介されています。これは器楽の合奏で取り上げられている楽器が掲載されていて、自分が学習した内容を写真を見ながら、さらにイメージを膨らませることができるようになっています。

4つ目の観点では、楽譜が平易なものから順に掲載されており、生徒たちの実態に応じて表現の仕方が深められるように工夫されています。

また、そこで蓄えられた技能を広げるための様々な工夫がされています。教科書の76ページを御覧ください。「レッツ・トライ」というコーナーで、比較的難易度が高いアンサンブル教材を掲載し、演奏技能をさらに高める工夫がされています。

このページでは、「サザエさん」や「風の通り道」、またほかのページでは音楽（一般）で学習した「春」やディズニーの「ホール・ニュー・ワールド」などのリコーダーアンサンブルが掲載されています。聞き覚えのある曲だからこそ、譜読みの時間が短縮され、アンサンブルの学習に集中できるように配慮されています。

また、98ページを御覧ください。「名曲旋律集」というコーナーでは、音楽（一般）の教科書で扱っている楽譜を生徒たちが取り組み、興味・関心を深めながら技能の向上が図れるように工夫されています。この楽譜では、赤とんぼを箏で演奏できるようになっています。歌うだけでなく、和楽器のことを通して、さらにこの曲を味わうことができるように工夫されています。

5つ目の観点では、社会生活の中、近年変化している楽器演奏のスタイルについて紹介されています。

4ページを御覧ください。ここでは、街中の公共の場所に設置されているストリートピアノが掲載されています。駅や空港に設置されているピアノを自由に弾いている映像が動画投稿サイトでもアップされていますけれども、その状況から、聴きに行かなければいけない、敷居の高いところから、手軽に聴ける、手軽に弾ける身近な楽器となり、生活の一部となりつつあるピアノを紹介しています。

続いて、「2. 資料」についてです。1つ目の観点では、楽器ごとに「学びリンク」という2次元コードが配置されており、別途利用して学習できるように工夫されています。

また、2つ目の観点では、学習している楽器の疑問点を自分で確認できる様々な工夫がされています。

教科書の8ページを御覧ください。このページでは、アルトリコーダーを学習しているのですが、教材を学習しながら、新しく取り組む表現を生徒自身で確認しながら学習を進められるように工夫がされています。

「3. 表記・表現」ですが、教科書の楽譜全ての音楽記号を適切な大きさに記載されています。巻末には、いろいろな用語、記号のページを示し、参照しながら学習することができるようになっています。

最後に「4. 総括」ですが、この教科書の中で、何が同じで、何が違うや、音楽の仲間たちのコーナーを掲載しており、自分で調べたり、内容を話し合ったりしながら、主体的に学習できるように工夫がされています。

以上で教育出版の器楽についての説明を終了いたします。

続いて、教育芸術社について説明いたします。「1. 内容」についてです。1つ目の観点ですが、こちらの教科書では、生徒たちになじみのある楽器から紹介されています。それぞれの楽器ごとに難易度の低いものから掲載され、段階を追って発展的に学習するように工夫されています。

また、音楽（一般）の教科書でも同様でしたが、教科書の8ページを御覧ください。中学校の器楽の学習内容、こういうところに各教材があります。各観点のうちどれがどのように関わっているのか、生徒自身で確認ができるように工夫されています。

また、アンサンブルの学習では、器楽の基礎的な学習を発展させ、学びの定着を高めるため、「アンサンブルセミナー」という合奏曲が掲載されています。

教科書の80ページを御覧ください。ここでは「千の風になって」の楽譜が掲載されています。演奏する楽器が指定されていないので、楽器を変更するたびに生まれる鳴り響く音楽を感じながらアンサンブルの工夫ができるようになっています。生徒たちは、こんな雰囲気にしていきたいなというイメージを持ちながら工夫して演奏し、さらに良くしていくための改善を繰り返していきながら学習を深めていくことができるように配慮されています。

2つ目の観点ですが、学びの観点を意識しながら、生徒たちが主体的な学びを高めるため、「学びのコンパス」というコーナーが設定されています。

55ページを御覧ください。このコーナーではキャラクターの吹き出しがその曲の特徴

について説明し、生徒たちの思考、判断につながる助言が掲載されています。また、注目するポイントと共通事項を意識させながら、よりよく表現するための手だてを示しています。教科書の後半にはアンサンブルのコーナーを掲載し、そこでは様々なジャンルの曲を取り上げ、生徒の興味・関心を高めることができるように工夫しています。

教科書71ページを御覧ください。このコーナーでは、生徒たちが聴いたことがあると思われる曲が掲載されており、演奏したいと思わせるような工夫が多い印象になりますけれども、それだけではなくて、各曲のねらいを示し、生徒たちが協働しながら主体的に演奏技術の向上ができるように改訂されています。

続いて、3つ目の観点ですが、生徒たちの学習意欲を喚起するために生徒たちになじみのある、「バンドの世界に触れてみよう」のページや、「楽器でメロディー」というコーナーで、生徒たちになじみのある楽譜を掲載しています。

教科書68ページを御覧ください。ここでは生徒たちが聞いたことがあると思われる「小さな恋のうた」という曲のバンドスコアが掲載されています。ギターは高音、ベースは低音、ドラムはリズムというように様々な楽器は役割を持っており、器楽の教科書で学習している合奏曲と同じ要素で曲が成り立っているということを確認できるようになっています。

続いて、教科書96ページを御覧ください。「楽器でメロディー」のページでは、日常生活で聞き覚えのある曲が多く掲載されています。箏で演奏する「少年時代」や「夏祭り」、篠笛で演奏する「もののけ姫」等、これらの曲を通して、楽器で学んだ基礎的な内容を確認できるようになっています。

また、それ以外の工夫としては、巻頭です。最初の部分のところに演奏家のメッセージの写真を掲載し、音楽に対する演奏家の思いを捉え、器楽の学習について興味が高まるように配慮されています。

4つ目の観点ですが、各教材には学習課題、学習内容に即した、音楽を形作っている様子が示されていて、生徒たちが主体的に学習できるように配慮されているのと同時に、創作活動と関連づけて学習できる内容も用意されています。また、それぞれの教材は平易な楽器から学習できる内容とされており、無理せずに基礎的な技術を習得できるように工夫されています。

5つ目の観点ですが、巻頭の「音楽って何だろう？」のコーナーでは、様々な民族音楽の楽器を紹介しています。その中に音楽批評家の小沼純一さんのメッセージを掲載し、世界の音楽についての意識を持てる工夫がされています。

続いて、「2. 資料」についてです。1つ目の観点では、各楽器の学習の最初に2次元

コードが掲載されており、動画や音声などの情報を視聴できるように工夫されています。

2つ目の観点では、リコーダーの学習がQ&A形式で学習のポイントが掲載されており、生徒たち自身の学習の課題点を自己解決できるようになっています。

「3. 表記・表現」についてです。教科書の楽曲全て音符や記号、歌詞が適切な大きさに記載されています。特に和楽器では、和楽器特有の記号を掲載するなど、様々な指導実態に対応できるように工夫されています。

最後に「4. 総括」ですが、教科書の多くの部分に資料のコーナーが掲載されており、その中では楽器だけではなく、多くの民族音楽で使われる楽器の紹介がされていたり、バンドのスコアが掲載されたりしており、日常生活と音楽で学習した内容の関連を感じさせながら学習できるように工夫されています。

以上で器楽の教科書の説明を終了させていただきます。ありがとうございました。

○原田委員長 ありがとうございました。

では、推薦のための協議に入ります。今の報告を受けて、委員の皆様から質問等ございましたらお願いいたします。はい、どうぞ。

○鈴木委員 楽器で、演奏に苦手意識を持っている子もいると思うのですが、そういう苦手意識を持っている生徒にもうまくなれるような何か工夫はあるのでしょうか。

○伊東委員 こちらは技術的な学習で、やはりどの教科書についても課題となってくることだと思いますけれども、どちらの教科書についても、まずは基礎をしっかり身に付けて発展させていくような継続性を持った教材の配置がされています。

教育出版の6ページを御覧ください。「演奏の仕方を身に付けよう」というコーナーでは、基礎的な技術を身に付けた後、今度は「合せて演奏しよう」のコーナーで、アンサンブルという形になりますけれども、初めは比較的平易なアンサンブルを進めていって、その後は少し難易度が高くなる、「レッツ・トライ」に進みます。難易度を意識しながら充実した協働活動ができるような配慮がされています。

教育芸術社では80ページを御覧ください。こちらの教科書でも個別学習からアンサンブルにつながっていきますが、このページに掲載されている教材は、それぞれのパートで示されており、先ほども紹介させていただいたのですが、演奏する人数や楽器を工夫して、そこから生まれる雰囲気を感じながら演奏する、そして技術が深められるような工夫がされています。

以上でございます。

○原田委員長 ほかにございますか。はい、どうぞ。

○石塚委員 各教科書に和楽器についてたくさん掲載されていて、非常にありがたいなど

思っているのですが、実際そういった楽器に触れる機会というのは、学校ではあるのでしょうか。

○伊東委員 はい、あります。実際に学習指導要領の中で、3年間の中で1回は和楽器に触れるという記載があるので、それぞれの教科書についても和楽器が子供たちの身近にあるように、それが感じられるような配慮がたくさん見受けられます。

まず、それぞれ特徴があるのですけれども、例えば楽器の捉え方というところには、各者の特徴があるなというふうには感じています。

教育出版の6ページ、それから教育芸術社の6ページをそれぞれ見ていただければと思うのですけれども、先ほどもお話しさせていただいたのですが、教育出版は管楽器、弦楽器、打楽器の順番で掲載されています。また、教育芸術社のほうは、和楽器はまとめて掲載されています。平成10年に告示されたというところで、和楽器の捉え方というものも、一般的な楽器なのだという捉え方であるとか、それからここでじっくりまとめて学習しようという捉え方であったりとか、教科書会社の中で、その捉え方というのは特徴があるのかなというふうな感じを教科書を見て感じたところでございます。

○石塚委員 ありがとうございます。

○原田委員長 1号委員さん、いかがでしょうか。

○田部井委員 私も同じで、これだけ楽器が載っているのですけれども、どれだけ学校ではやっていらっしゃるのかなというのがすごく気になっていたところでした。

あとは、こちらの教科書と、先ほどの音楽（一般）というのは、やはり同じ会社のもので選んだほうがよろしいのでしょうか。

○伊東委員 まず、最初の和楽器の取組なののですけれども、越谷市では、やはり箏を取り上げている学校が多いのです。本校なんかだと日本伝統文化部があって、そこで琴を合奏するというようなことが、部活の中でも活動しているところもありますし、また越谷市としても箏のメンテナンスであるとか、新しい箏を購入する希望を聞いたりするので、やはりそういうことを考えていくと、やはり、箏が越谷市に住んでいる子供たちについては取り組みやすい感じなのかなとは思いますが、私、いろいろな学校を回らせていただいていますけれども、三味線であるとか、篠笛を使っていますという学校はあまり見たことはありません。大体箏ですね。

それから、違う教科書ではどうなのだというようなことなののですけれども、これについても、私は、規定はよく分からないのですけれども、これもどちらも同じ教科書を使っていることしか見たことないです。それぞれのよさがあるので、例えば音楽（一般）は教育芸術社で、器楽は教育出版でというようなところも、もちろん可能だとは思いの

ですが、実際そういう所はないという現状があります。

○**原田委員長** では、お時間になりましたので、音楽（器楽）の協議はここまでといたします。次回は推薦のための投票を行います。投票の前に改めて協議の時間を取ります。委員の皆様におかれましては、今日の協議を参考にし、各自でもう一度考えていただき、投票に臨んでいただければと思います。

では、ここで教科書を入れ替えますので、お待ちください。

続いて、特別の教科、道徳の協議に入ります。

事務局より選定観点を確認してください。

○**事務局** 資料3の33ページを御覧ください。

特別の教科、道徳におきましても、他の教科と同様、4つの大きな項目がございますので、ご確認ください。

以上でございます。

○**原田委員長** では、道徳部会長から報告をお願いします。

○**伊藤委員** はい。では、7者ありますので、それぞれ全部の項目を読むと、とても時間がないので、1の（2）、「現代的な課題などの題材を教材として取り上げる工夫について」と、それから1の（4）、『考え、議論する道徳』を通して道徳性を育成する工夫について」、主に1年生の教科書を使ってご説明したいと思います。

まず、東京書籍から行きます。現代的な課題についてですが、表紙をめくっていただいて、目次を御覧ください。「いじめのない世界へ」と「命を考える」として、それぞれに3つの教材を組み合わせたユニットになっています。それぞれのテーマについて学習するよう構成されています。様々な角度から多面的・多角的に考えていくことができます。

また、いじめ、生命尊重、情報モラル、自己肯定感を育む教材については、指導に最適な時期を考慮して、各学年同時期に取り上げられるようになっています。

SDGsに関しては、巻末付録で取り上げています。

全学年でコラムが充実しており、教材と関連させて深化、拡充ができる工夫が見受けられます。

考え、議論することについては、自分の考えたことを記録、メモできる「つぶやき」というところが設けられています。また、「考えよう」や、「見つめよう」が各教材に設定されていまして、さらにぐっと「深める」というコーナーがあって、そこでの話合いのヒントになるものがあります。

ほかにも巻末の付録やデジタルコンテンツに「心情円」という自分の心が今どっちに

傾いているのかというのを示すものがあるほか、気持ちの揺れ動きを表現できる工夫などが見られます。

また、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習として、「プラス」という道徳で学習したことを広げたり、深めたりすることができるコラムが設けられております。

次に、教育出版についてです。現代的な課題についてですが、2、3ページの目次を御覧ください。「いじめをなくそう」、「つながりあって生きる」、「命を輝かせる」という大きな3つのユニットを複数の教材とコラムを組み合わせ、それぞれ設定しています。

現代的な課題について、繰り返し考え、問題の本質を多面的・多角的に深めていく工夫が見られます。

また、3年間を通して、いじめや差別を様々な側面から考え、深めていけるように各学年ともバランスよく配置されています。

考え、議論することに関しては、教材ごとに「学びの道しるべ」という問いが設定されています。教材を基に自分の考えを持ち、深めたり、みんなで話し合ったりするための問いになっています。

ほかにも学びを広げたり、深めたりする「広場」が設定されています。学習者用デジタルコンテンツには、思考ツールや心情メーター、先ほどの心情円みたいなものですが、心情メーターがあって、考えを整理し、表現できるなどの工夫が見られます。

問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習としては、直前の教材に関連した活動のページとして、「やってみよう」というコーナーが設定されていて、学びを深めることができるようになっています。

続きまして、光村図書です。現代的な課題に関してですが、同じように2、3ページにある目次を御覧ください。人権については、全学年、教材+コラムという形でユニット形式になっています。

いじめに関しては、学級形成の早い段階でユニットを設定して、時間をかけて考えられるようになっています。

ユニットの3つ目には、「学びをプラス」というコーナーを設置して、自分事として問題を捉えられる工夫がされています。

いじめユニットのほかにも年間を通していじめに関連した教材を配置しています。

情報モラルに関しては、発達段階にあった問題を取り上げて、考えを深められる工夫が見られています。学年ごとにバランスよく配置されているなというところです。

デジタルコンテンツのほうでは、「スマイルメーター」というものがあります。

考え、議論するというところでは、考えようという通常の手引に加えて、自ら問いを立てて考えていく、「チャレンジ」、「問いを立てよう」というところが設定されています。

これは全学年とも生徒が道徳的価値からぶれずに問いやすい教材で考えることができます。

また、「やってみよう」では、友達と会話しながら考えを深められる手だてを載せるなど工夫がされています。

問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習としては、「チャレンジ」、「演じて考えよう」というのがあって、ロールプレイングによって考えを深められるような工夫がされています。「問いを立てよう」と「演じて考えよう」は全学年に配置されています。

続きまして、日本文教出版です。現代的な課題としましては、2、3ページの目次を御覧いただくと、いじめと向き合うユニットを各学年、いじめが起きやすい時期に、いじめが起きるであろうと考えられる時期に複数配置されていまして、いじめを直接的に扱った教材と間接的に扱った教材の両方で重点的に設定しています。

さらに、いじめに関するコラムを、知識を深めるものとスキルを身に付けるものの二段構えで構成しております。多面的・多角的に考えられるような工夫がされています。

そのほか、多様性の尊重やSDGsなどの現代的課題に関わるユニットや教材やコラムも多数掲載されていて、生徒の意欲を引き出すための工夫が見られます。デジタルコンテンツも使いやすいと思います。

考え、議論するということに関しては、教材ごとに「学びのキーワード」というものを挙げまして、話し合う教材が意識づけられるようになっています。ほかにも「考えてみよう」というねらいに迫るための問いや自分に「プラスワン」、プラス1といった自分を見つめるための問いが設定されています。

別冊の道徳ノートと併せて考え、議論しながら言語活動を充実する工夫が見られます。

問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習としては、「学びを深めよう」というものがありまして、そこでは道徳的な問題について考えたり、体験しながら学んだりできるようになっています。

続きまして、Gakkenです。4ページ、5ページを御覧ください。全学年で生命、命の尊さを学ぶ教材を3つずつ配置しておりまして、生命や人権を重んじ、多様性を受け入れながら、他者とともに、よりよく生きることについて考えられる工夫がされています。

また、現代的課題に関するテーマをマークにして、タイトル下部に配置しています。

生徒が身の回りの課題とつなぎながら主体的に学ぶことができるようになっていきます。

さらに、SDGs、多様性、キャリアの3つのユニットがあり、複数の教材を用いて多面的・多角的に考えを深められる工夫が見られ、バランスよく配置されています。それから、デジタルコンテンツも充実しています。

考え、議論するということに関しては、巻頭9ページに「考えをまとめる4つのステップ」というコーナーがあります。また、各教材に「考えよう」というねらいに迫るための問いが設定されています。

ほかにも題材に関連した、「深めよう」で具体的な事例を基に学びの提案がされています。

巻末187ページには、「学びのメモ」というものが用意されていて、日々の授業について、気付いたことを書き留められるような工夫がされています。

問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習として、「深めよう」というページや「クローズアップ」というページで考えを深めて書き込んだり、振り返りをしたりすることができるようになっていきます。

続きまして、あかつき教育図書です。現代的な課題としては、表紙をめくった目次を御覧ください。いじめ問題、情報モラル、共生社会、キャリアなどの重点的に考えたいテーマをユニットすることで焦点化して、発達段階に合わせた教材を設けています。3学年で展開することで、継続して学びを広げ、深められる構造になっています。

また、「マイプラス」というページを設けていまして、対話を通して思考を深められるように工夫されています。さらに、2次元コードから写真や動画、参考となる外部資料などを見ることができ、多面的・多角的に考えを深められる工夫が見られ、教材がバランスよく配置されています。

考え、議論するということに関しては、教材ごとに「自分を見つめて考える」や「考えを深める」というものがあって、ねらいに迫る問いになっています。考えの道筋が設けられているので、授業者と生徒は、何をどのように考えるのかを共有できるようになっています。

また、巻末には、学習の記録コーナーがあり、学期ごとの学びを振り返られるなどの工夫が見られます。

問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習として、「マイプラス」という教材及び活動を通して、いろいろな視点から考えを深めるというページになっています。

日本教科書です。全体的な課題に関しては、いじめ問題では、いじめに真正面から向き合う直接的に扱う教材があれば、間接的に考えさせる教材もあり、特に学校生活の中

でいじめに陥りやすい場面を取り上げています。

そのほか、情報モラルや人権、LGBTQや多様性、環境、資源、生命尊重、国際貢献、国際理解、キャリア形成などの様々なジャンルの現代的課題の教材が多数掲載され、生徒の意欲を引き出すための工夫が見られます。

また、巻末に「ウェルビーイングカード」というカードがありまして、切り離して使うものなのですが、これの活用によって多面的・多角的な考えを深められるような工夫が見られます。

考え、議論するということに関しては、言語活動を充実させるためには、教材ごとに「考えよう」や「深めよう」というねらいに迫る問いが設定されていまして、ほかにも先ほど申しましたが、巻末付録の「ウェルビーイングカード」というものがありまして、何もないところで発言をするのではなくて、このカードをきっかけにすることで話しやすくしたりとか、組み合わせることで多面的に自己を見つめ直したりできる、そういうカードです。そういうカードの使い方をしながら授業を深めるということです。

問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習として、やはり「ウェルビーイングカード」というものを活用しながら、自分の気持ちを整理したり、キーワードで捉えながら話ができたりと、そういう形で使いながら学びを深めていくというふうな工夫がなされています。

以上です。

○**原田委員長** ありがとうございました。

では、推薦のための協議に入ります。今の報告を受けて、委員の皆様から質問等ございますでしょうか。はい、お願いします。

○**神田委員** 生徒が広い視点から多面的・多角的に考えられる工夫があれば、今2つぐらいの会社のものはお伺いできたのですが、ほかの会社にもそういうところがあれば紹介いただければと思います。

○**伊藤委員** 一番は、目次を見比べていただければ分かるのですが、実はどの教科書会社さんもそれぞれの、例えば道徳は4つの視点があるのですが、例えばA、自分自身に関すること、B、人との関わりに関することとか、C、集団や社会との関わり、Dとしては生命や自然、崇高なものとの関わりという4つの視点があるのですが、この4つの視点に対して、それぞれ幾つか教材を設けていますので、例えばAに対して3つとか、4つとかという、違う切り口から取り上げた教材が設定をされています。なので、年間を通してやっていくことで、例えば1つのAという視点に対しても様々な角度からアプローチすることができるという工夫が、どの教科書会社さんもされています。

○原田委員長 ありがとうございます。はい、どうぞ。

○萩原委員 ありがとうございます。道徳の授業という、自分で題材について考えて、それを発表して、人の発表を聞いて、そういう考え方もあるのかというのが今まで主流だったかと思うのですけれども、最近はやはり自分の考えを持ったものに対して議論する、考え、議論していく授業というのが、やはり重要になっていると思うのですけれども、議論して考えを深めていくような、その工夫が教科書会社さんで、どんな工夫があるのかというのがあれば教えてください。

○伊藤委員 まず、教科書をめくっていただけると、教科書のメモ欄を設けている教科書会社さんも多いかなと思います。自分の考えを書き込めるような状況になっていたりとか、先ほども申しましたが、体験的にロールプレイングをやってみようというふうになっていたりとか、またデジタルコンテンツには、様々な教科書会社さんのものを見させていただいたのですけれども、そこに表が載っていて、タブレットを使いながら、そこに自分の考えを書き込めるようになっていたり、学校では今ロイロノートというものを使っていますけれども、そこで意見を吸い上げながら、ほかの子の意見を参考にしながら、自分の意見を提示して、みんなで共有していくとか、そういった活動ができるような様々なデジタルコンテンツの工夫も見られておりました。そういう形で、今はただ単に手を挙げて発表するとか、そういうことではなくて、様々なコンテンツを使いながら議論ができるような工夫がなされております。

以上です。

○原田委員長 ありがとうございます。

ほかにありますでしょうか。

〔発言する者なし〕

○原田委員長 2号委員さん、いかがですか。

○石塚委員 今の中学生を見ていますと、全体的な課題というのが、ますます深化しているかなというようなイメージを持っています。それに対して多分各教科書会社では重点的に取り扱って、少しでも解決する方向に向けていこうという工夫がされていると思うのですが、その辺の工夫につきまして、もし情報提供していただければありがたい。

○伊藤委員 どの教科書会社さんにおいても、全体的な諸課題に関して大きく違いはありません。必ず取り上げておりました。

先ほども申し上げていますが、レイアウトであるとか、配置に関しては、各教科書会社さんの工夫があるのですけれども、とりわけ命とか、人権というものに関しては重要視しているなど感じております。その点に関してもコラムを設けたりとか、より

深い学びにつながるように工夫されているなと感じました。

○石塚委員 ありがとうございます。

○原田委員長 では、1号委員さん、いかがですか。

○小泉委員 ありがとうございます。2つ感想を持ちましたので、述べさせていただきます。

1つ目が、すごくどの会社さんも流れを考えて、最初のスタートだから自分のことについてとか、命のことについてとか、あとはこの時期だからというようなご説明をいただいたので、1年を通して道徳の授業に当たれるというところ工夫していただいているのかなと思ひまして、大変ありがたいと思ひました。

もう一つが、私たちが受けていた授業の印象なのですけれども、何か人に優しくとか、相手との関係を大切にしましょうという授業が多かったなという私の印象なんですけれども、今は自分がどうありたいとか、自分を大切にしましょうねというような題材がすごく増えているような気がして、そこってすごく今の子どもたちにとって大事ななというふうに思っていますので、ご説明していただいて、すごく感じられたので、とてもうれしく思ひました。感想です。ありがとうございます。

○原田委員長 ありがとうございます。

では、時間になりますので、特別の教科、道徳の協議はここまでといたします。次回は推薦のための投票を行います。投票の前に改めて協議の時間を取ります。委員の皆様におかれましては、今日の協議を参考にし、各自でもう一度考えていただき、投票に臨んでいただければと思ひます。

次は、特別支援教育の協議に入ります。

事務局より選定観点を確認してください。

○事務局 特別支援教育の選定観点ですが、資料3の37ページからになります。6種類ございますので、こちらご確認いただければと思ひます。

以上でございます。

○原田委員長 では、特別支援教育部会長から報告をお願いします。

○木野内委員 お世話になります。

特別支援教育のほうですけれども、他者の教科書と比べるというのではないので、各教科で特徴的なところを紹介させていただきたいと思ひます。

まず初めに、国語です。国語のほうは1、内容、(3)は実態に応じた指導を行う上で国語に対する関心を高めるにはどのような題材が配慮、工夫されているかということなので、まず星の4つについている38ページを御覧ください。こちらのほうには

いろいろな標識、標示について書いてあります。

そして、続いてその後ろ、46ページを開けてください。こちらのほうは水道水ができるまでという内容が書かれています。

もう一つ、星がある、星が5つなのですけれども、こちらのほうの46ページを御覧ください。こちらのほうには「学校の図書室で本を探そう」について載っています。

そして、こちらの星5の52ページ、こちらのほうはスーパーマーケットの見学ということで載っています。

このように生活していく上で必要不可欠な内容が多く含まれています。全体としては、話すこと、次に読むこと、最後に書くことというように3つの観点がバランスよく順番で配列されています。そのため、観点ごとのねらいが追いやすく、取り組みやすい内容となっています。

続いて、2の資料の(1)、学習意欲を喚起するために読み物教材はどのように工夫されているかというところですが、もう一度、また星の4のほうの今度は14ページを開けてください。

14ページには、「電話を使って伝えよう」という内容があります。生活に密接した内容の教材が取り上げられています。

また、星5の8ページを御覧ください。こちらのほうは「校外学習に行く前に確認しよう」ということが載っています。そしてさらに、この後ろの10ページには、「みんなに伝えよう」ということで、学校生活の中での問題点の話合いにおいて、実際の学校生活に即した場面設定がされております。自分に置き換えてイメージをしながら学習したり、学校後、実生活の中で活用したりできる工夫がされています。

このほかにも全体としては、詩、俳句、ことわざ、物語、説明文、民話など、様々な時代、様々な種類の作品が取り上げられて、生徒が興味・関心を持てるような工夫がされています。

続いて、3、表記・表現の(1)、教材の内容を把握しやすくするために仮名遣いや用語などにはどのような工夫が見られるかということですが、こちらのほうは星4のほうでは比較的大きく太く文字が記載されております。漢字の画数などが理解しやすくなっています。

また、星5のほうでは、文書の書き方や修飾語、指し言葉などの内容が比較的多く言葉を理解する工夫がされています。

全体としては、星の数ごとに文字の大きさも異なり、見やすくなっています。ルビのほうも初出に振ってあって、再出の際には振っていないなどの記憶を促すような工夫が

されています。また、強調している箇所の表記の工夫などがあります。

国語については以上です。

続いて、社会に移ります。社会のほうの星4、星5の資料をお願いします。社会のほう(1)、内容ですけれども、社会との関わりを意識し、具体的な活動や体験を行うためにどのような工夫をしているかです。

星4のほうの36ページを御覧ください。先ほどの国語にもありましたけれども、ここで図書館の使い方についてということで、このように具体的に載っています。

そして、同じく42ページを御覧ください。42ページのほうには、電車の乗り方、そしてさらに進んでいくと44ページということで、実際の障害者手帳について触れており、電車、バスの運賃の割引、公共施設料金の割引の内容が分かりやすくまとめられています。

また、星5のほうでは、役割と責任ということで、6ページを御覧ください。6ページのところに、ここに役割責任ということで示されていて、ここから役割には家庭での役割、学校での役割、そして地域での役割が触れられています。

ここから後ろのページに進むに従って、それぞれの役割が詳しく説明され、社会性をより意識した内容となっています。

続いて、2の資料の(1)ですけれども、学習意欲を喚起するために読み物教材をどのような工夫が見られるかというところですが、こちらのほうは星4、星5のほうともに埼玉県について調べることで、自分の住んでいるまちの興味・関心を高め、埼玉県のよさを考えることができるようになっています。

星4のほうでいきますと、99ページを御覧ください。99ページのところには、私たちの市はどこにあるのでしょうかということで、軽く触れてあります。これが星5のほうの96ページになりますと、このように埼玉県の地形、そして自然、農業、交通等のことが詳しく書いてあります。これが96ページから後ろにずっとつながっています。

また、ちょっと話は変わりますが、星5のほうの5ページを御覧ください。最初のほうの5ページです。ここにマークの説明があります。マークに書かれていることは、見つける、調べる、考える、話し合う、まとめる、発表するというマークがありますけれども、これをページごとに、どのように学習に取り組むかが明記されていて、効果的な学習につなげられるようになっています。

最後ですけれども、4の総括では、学習内容の系統性や子供たちの日常生活のつながり、他教科との関連、小中の連携など、子供の学びの広がりを意識させる工夫が見られるかということですけれども、今見ていただいたように身近な生活から徐々に視野を広

げて、無理なく地域社会や世界に目を向けることができる構成となっています。

また、小学校の生活科や高校のほうの社会科との連携もあるようです。他教科との関連を意識したつくりとなっております。

さらに、責任や社会生活に必要な決まりなどを学ぶことで、よりよく生きるために何を学習すればよいのか分かるような工夫がされています。

社会については以上です。

続いて、数学です。数学のほうは、1、内容、(1)ですけれども、数学的活動の充実を図るため、どのような工夫をしているかです。星4のほうでは、身近なものから大きさや形に注目がしてあります。

星4の4ページを御覧ください。4ページは、このように「あめを数えよう」という問題です。それをめくってもらって10ページを御覧ください。10ページのほうは、今度はパンを数える問題となっております。

さらに、15ページに移ってもらいますと、そちらのほうは鉛筆を数える問題となっております。このように計算問題では、身近なものを数える活動、そして買物の場面、今説明したのはなかったですけれども、買物の場面を想定しているものがあります。

また、128ページ、131ページを御覧ください。何が書いてあるかということ、128ページのほうは、はかりのことについて、そして131ページのほうは時計のところが載っています。メモリが拡大して見やすいようになっています。

また、星5のほうですけれども、86ページを御覧ください。円と球というところがありますけれども、こちらのほうは卵やサッカーボールを用いて円と球を学習に役立てています。全体としては日常生活の場面を多く取り上げ、学んだことをこれからの生活に生かすことができるように工夫されています。

続いて、2の資料、(1)、学習意欲を喚起するために読み物教材をどのような工夫が見られるかということですが、星4のほうでは、数えてみようということで、先ほどちょっと見ていただきましたけれども、5ページ、6ページを御覧ください。

星4のほうの5ページ、6ページです。そうすると、ここでは位が上がっていくことを、ここにある箱、または次のページです。部屋という表現を用いることによって分かりやすく説明しています。

星5のほうの今度は4ページを開けてください。こちらのほうは1,000より大きい数について防災倉庫の様子を図が示してあります。そして、これを見ていただきながら、今度は10ページを開けてください。その防災倉庫の中に入っているものということで、数の大きさ、比べ方ということで、授業の作業で扱う内容や実生活に即した場面を取り上

げており、自分に身近な内容として取り組みやすくなっています。全体としては、学習した内容が生活のどんな場面で生きるのかが分かりやすく学習後も実生活の中で活用できるように工夫がされています。

続いて、3の表記・表現ですけれども、(1)として、教材の内容を把握しやすくするために仮名遣いや用語など、どのような工夫が見られるかというところです。こちらのほうは、星4のほうでは、図形では、ふだん使用している身近なノートや教室の写真など、日常生活がイメージしやすくなっています。

具体的には、4のところの101ページを御覧ください。101ページには、このようにノートが写真として載っています。

そして、次のページの102ページには、教室の角を測るということで、このようになっています。

また、61ページを御覧ください。61ページのほうには、このように計算機が使えるように、計算機を押すボタンが、順序が示されながら、見て操作ができるように、使えるようになっております。

また、星5では、文章問題の囲みがあったり、出題が視覚的に分かるように工夫されています。また、面積の単位では、解説ではイラストの地図等を重ねてあって、生徒がイメージしやすいように工夫されています。全体としては、イラスト、写真、図等が多く提示されておって、単位ごとにイメージがしやすいように効果的になっております。

数学については以上です。

続いて、理科です。理科のほうの1、内容、(1)では、自然に親しむ活動や体験的な活動を行うためにどのような工夫をしているかというところです。こちらのほうですけれども、星4の6ページを御覧ください。

星4の6ページには、このように校庭への生き物探しということで、図が載っています。ここから、この図から10ページ、11ページを御覧ください。ここから生き物探しをした結果から、今度10ページ、11ページのところ、植物、動物の分類ということになっております。仲間分けをされています。

そして、12ページからは、今度は植物を育てようということになっています。

そして、32ページ、同じ本の32ページからは、今度は昆虫を育てようというふうに単元が配置されています。ここで植物や動物の特徴や育ち方が学べるような工夫がされています。

そして、星5のほうでは、春夏秋冬の季節を通して観察が計画されています。植物や動物への興味・関心が高められるようになっております。実際には、最初に6ページ、

7 ページを御覧ください。ここに、こういうふうに、まず春の写真があって、観察計画を立てようということになっていきますけれども、このことについて、では具体的にどんな計画を立てるかということで、8 ページ、9 ページということになっております。

これが次に夏になりますと、24ページ、25ページ、このように里山の写真が出てきて、カブトムシ等の昆虫の写真が載っています。

そして、秋については、80ページ、81ページ、この白黒なので、何とも言えないのですけれども、里山の写真が載りつつも、植物が紅葉している、紅葉とかがある、そういう写真が載っておるわけです。

そして、冬ということになりますけれども、冬のほうでは、同じ里山ですけれども、カブトムシがこのように幼虫になり、ほかの植物については、ここにあるのはホトケノザということで、写真として示してあります。

続いて、2の資料、(2)、効果的に活用するためということですが、こちらのほうは、皆さん御覧のとおり、挿し絵や写真、図などが、いろいろ工夫が見られています。星4、星5ともに植物や生き物の写真が多く使われていて、ちょっとコピーでは何とも言えないのですけれども、色や質感が読み取れるようになっています。

また、ところどころにQRコードが入っていますので、子供たちは持っているタブレットから検索できるようになっています。

続いて、3、表記・表現ですけれども、こちらのほうは(1)、教材の内容を把握しやすくするために仮名遣いや用語がどのような工夫が見られるかということですが、1つ言えば、星4のほうでは、まとめを箇条書きにされていて、理解しやすいように簡潔にまとめられています。

また、星5のほうでは、78ページを御覧ください。ここにちょっと新しい言葉として、子供たち、案外捉えるのが難しいのですけれども、水蒸気、このほかのページにも液体、体積という意味を理解できるように、やはり絵や写真を使って視覚的に現されて、簡単な言葉を用いて説明するようになっております。このような図を通してなっております。

理科については以上です。

続いて、音楽です。音楽のほうですけれども、音楽のほうも1、(1)、内容ですけれども、表現及び鑑賞の活動を通して生徒の主体性を引き出すための工夫がなされているかということですが、星4のほうを出してください。

こちらのほうの18ページと30ページを出してみてください。18ページのほうは手拍子リレーで、30ページのほうは、皆さん御存じのパプリカということで、このように体を

使ったダンスなど、歌うことに苦手意識のある生徒も楽しめる内容で構成されています。体の動かし方と図が、これを見ていただけると、たくさんありまして、曲に合わせて表現しやすいようになっています。

続いて、星5のほうですけれども、こちらのほうは楽器を扱った合奏ということで、49ページ、または50ページを御覧ください。48、49で日本の民謡ということで載っています。50ページのほうは、いろいろな楽器ということで載っております。

そこには日本の楽器について紹介されていますけれども、これが今度56ページ、57ページになりますと、世界の音楽、世界の楽器ということで、地図がこのように載りつつ、その様子が写真に載っていて、そして次の58、59では、実際演奏されているような図になっております。紹介されています。

また、24ページを見てください。24ページにはシンクロBOM—BA—YEということで、動きを考えて表現する活動も、先ほど手拍子リレー、パプリカでも紹介しましたがけれども、そういう活動が多く取り入れられるようになっています。

全体としては、歌うこと以外でも音楽が好きになれるよう様々な内容で構成されており、歌詞や曲調に合わせた挿し絵や写真が豊富に用いられています。

続いて、2の資料の(2)の効果的に活用するために挿し絵や写真、図などの工夫が見られるかどうかですが、今話したとおりなのですけれども、星4のほうも星5のほうもともにリズムに合わせて表現しようというところがあります。

星4のほうの29ページを御覧ください。先ほど開いたページ、パプリカの前のページなのですけれども、タタロチカというふうにあります。

そして、同じように星5のほうでは、20ページ、Head Shoulders Knees And Toesということで掲載されています。

動きの一つ一つが、このようにこま送りで図で示されております。体を使って実際の活動が取り組みやすいようになっています。

また、実際のちゃんとした本では、楽器についても主な写真が用いられていて、実際の形や色や質感が分かるようになっています。

それから、最後なのですけれども、星印4の8ページです。星印4の8ページは、このように季節の歌を歌おうということでありますけれども、ここも御覧のとおり、写真を見て季節を感じながら歌うことができるように実際の本では色鮮やかなものが使用されています。

全体としては、多くの写真、挿し絵から各地の文化的な音楽、日本の古きよき音楽、世界の音楽、楽器の技術等、他のジャンルの音楽を学ぶことができます。

3番の表記・表現についてですけれども、こちらのほうは星4のほうの84ページを開けてください。84ページに、このようにリコーダーの吹き方というのが載っています。実際の写真と動作、吹き出しを掲示していて、タンギングの説明がされております。生徒が迷いなく練習できるように工夫されています。

また、基礎的な音符や記号、音の高さなどが分かりやすく記載されています。

星5のほうの45ページを御覧ください。星5のほうの45ページについては、音階と和音ということで、ここではちょっと難しいものだと思うのですが、ハ長調の音階とイ短調の音階とを比較したり、鍵盤のどの位置が主音なのかが理解しやすくなっています。いずれにしても、写真やイラストなどが多く用いられていて、視覚的情報が入りやすい工夫がされています。また、音楽の基礎的な技術、知識なども記されております。

音楽については以上です。

そして最後、職業・家庭です。1の内容、(2)では、職業分野、職業生活、情報機器の活用、作業現場等における実習、家庭分野では家庭、家族、家庭生活の役割、家庭生活における余暇のそれぞれに関する題材は生徒の生活に結び付き、かつ関連性のあるものになっているかということですけれども、まず職業分野ですけれども、星4、星5ともに作業学習や、ふだんの生活を取り巻く環境から、働くということを自然と想起させる流れとなっています。

また、星4のほうでは、余暇の楽しみ方や困ったときの相談先などが、星5のほうでは働く生活を支える社会の仕組み、就労継続支援A型、B型、障害者就業、生活支援センター、ジョブコーチ等が紹介されています。

家庭分野においては、星4、星5ともに自分の生活、成長と家族、家庭生活と役割を学び、生徒自身の生活や成長を振り返りながら、家庭における役割や生活なりを学べる内容になっています。

その中でも星4の22ページを御覧ください。星4の22ページは、ここに先ほどちょっと言いましたけれども、余暇について書いてあります。

あわせて、星5の46ページを御覧ください。やはりこちらのほうも余暇の楽しみを知ろうということで、心身ともに健康に暮らせる大切さや社会とのつながり、生活を充実させる大切さを知ることができるような内容となっています。

2、資料、(2)、効果的に活用するために挿し絵、写真、図などがどのように工夫されているかですけれども、こちらのほうは、4のほうは、58ページから63ページを御覧ください。ここに58から63ページをぺらぺらとめくっていただくと、調理の手順を番号と絵で具体的に示してあります。これを見ることによって、見通しを持って取り組める

工夫がされています。

今度は星5のほうの62ページを開けてみてください。62ページ、63ページです。コピーで残念なのですが、ここにどんっと中学生の1日に必要な食品を実物大で示してある写真が載っています。このように視覚的に量が分かるように工夫されています。実際には、もっと本当にきれいな写真になっております。

4の総括ですけれども、他教科、小中の連携など、子供の学びの広がりを意識させる工夫が見られるかということですが、このように実際の家庭生活や将来の職業生活に直接関わる調理の基礎、衣服の着用や手入れ、身近な消費生活、作業や作業現場等での実習など具体的内容がバランスよく取り入れられています。また、総合的な学習で学ぶコンピューターの内容や社会科で学ぶ測量、理科で学ぶ植物の栽培等、他教科との関連が意識できるように工夫されています。

以上です。

○原田委員長 ありがとうございます。

それでは、協議に入ります。特別支援教育につきましては、複数の教科書から選ぶということではなく、文部科学省から出されている、いわゆる星本の採択について協議したいと思います。

何かご質問やご意見がありましたらお願いいたします。はい、どうぞ。

○鈴木委員 各教科によって、星の数によって端的にどのような違いがあるのか、教えてください。

○木野内委員 星の数が多くなればなるほど、知識、理解とか、そういうところのレベルが高くなっております。理科などで見ますと、星4のほうは、主に小学校3、4年生的な内容が多いかなと。星5のほうは5、6年生で扱うような内容ということで、系統的に載っております。

以上です。

○原田委員長 ありがとうございます。

ほかに何かございますか。

〔発言する者なし〕

○原田委員長 特別支援学級で使用する教科書は、子供の実態に応じて、特別支援用の教科書を使用するか、または通常の教科書を使用するかという採択をすることができます。なお、教科書は1種類というか、1冊しかもらえませんが、星本をもらうのか、そっちの親学級というか、そちらの教科書をもらうかという採択をするために越谷市として、選択の幅を広げるために、ここで星本の採択について話し合うことになりますので、ご

質問等あったら、お聞きいただければと思います。いかがですか。

では、2号委員さん、いかがですか。

○石塚委員 特別支援教育に関わっては個人差が大きいかなと理解しているのですが、日常生活と学びを、その個人差、個に応じて結び付けることは大変重要だと思いますが、どんな工夫があるか、教えていただけると大変ありがたいのですが。

○木野内委員 特別支援教育について、特別支援学級にいる子には、それぞれ長期計画があります。Aプラン、Bプランですけれども、それはそれぞれの生徒の特性によって、まず担当の先生が中心になって考えています。また、それは学校だけではなくて、家族、保護者の方にも見ていただきながら、プランとしてつくっております。

それを基にして共通理解の下に学習を進めていくということでやっております。いずれにせよ、コミュニケーションをしっかりと生徒とも取らなければいけないし、保護者ともしっかりと取っていかないと、ふだんの教育活動はできませんし、日常生活においては、この星本がないと、どうなるかという、各担当の担任の先生が通常学級で使っている教科書を持ってきて、それを抜粋して新たに教材・教具として開発していかななくてはならないところがあります。

なので、市内の小学校、中学校なんかでも、使われている学校もありますけれども、使われていない学校の先生方は、一応そういうことで教材・教具を一々開発していくという感じになっております。どっちにしても、とにかく子供のためにやっていることです。

以上です。

○石塚委員 指導される先生方は、本当にご苦労されているなど。そのことにつきまして、ある程度理解させていただきました。ありがとうございました。

○原田委員長 では、1号委員さん、いかがですか。

○田部井委員 こういう特別支援学級にも教科書があるというのを知らなくて、今回見せていただいて、こういう内容なのかと思ったのですけれども、これはやはりその子によって全部違うのか、星3、星4の授業とか、その子によって違うのですか。

○木野内委員 そうですね。ですから、同じ学年だとしても、要するに保護者と相談しながら、この子は星4、星5、場合によっては、もうちょっと低いということもあるかもしれません。中学校では、一応星4、星5というところです。

○田部井委員 それを採用したとしても、その子によって、もうちょっと進んだ子、数学なんか特にそうだと思うのですけれども、それよりも理解度が上がっている子については、ではそっちにという形になるのでしょうか。これを採用するかしないかで、採用し

てしまったら、そういう子はそっちにならないのでしょうか。

○木野内委員 教科書そのものは、1人1冊なので、その年については、それでいくしかないのですけれども、そこは先ほど言ったように特別支援学級の先生が教材を開発して、その子に合ったものをつくっていくということで、どの学校でも進められています。

○田部井委員 ありがとうございます。

○原田委員長 よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○原田委員長 では、時間になりますので、特別支援教育の協議はここまでといたします。次回、協議の続きを行い、推薦のための投票を行います。委員の皆様におかれましては、今日の協議を参考にし、各自でもう一度考えていただき、投票に臨んでいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局 続いて、この後の流れでございますが、次第の裏面を御覧ください。まず、7月5日に協議を行いました1種目、理科について、推薦のための投票を行います。

前回の部会長からの報告及び協議内容を踏まえ、協議の後、投票という順に進めていただければと思います。

以上でございます。

○原田委員長 これより議事に入ります。

それでは、理科について協議と投票に入ります。

前回の部会長からの報告を踏まえて、何か協議したいことなどはありますでしょうか。

〔発言する人なし〕

○原田委員長 特にご意見がなければ、投票の前に、学校からの推薦の数を確認したいと思います。

資料1—1ページを御覧ください。学校からの推薦は、このようになっております。少し時間を取りますので、理由等にも目を通していただければと思います。

〔資料通読〕

○原田委員長 よろしいでしょうか。

〔「はい」と言う人あり〕

○原田委員長 では、投票に移ります。投票の手順について、事務局よりお願いします。

○事務局 それでは、投票関係資料という、こちらの資料を御覧いただければと思います。

越谷市立小中学校教科用図書選定委員会の投票に係る実施手順を御覧ください。

手順の14を御覧ください。投票は、協議内容や各種の資料を基に、教科書発行者ごとに5段階で評価していただきます。投票後、上位3種類を教育委員会会議に推薦する教

科用図書といたします。

なお、本日協議した音楽ですとか、地図のように２種類の種目については、２種類とも推薦する教科用図書といたします。

なお、投票は無記名になります。

次に、投票の流れを図で示したものが最後のページにありますので、御覧ください。

委員長、副委員長から順に、PTA連合会のお二方、その後は本日の座席順に行います。事務局が投票箱をお持ちしますので、その場にて投票ください。

投票の立会人は、投票に係る実施手順10、先ほど見ていただいたとおり、その都度委員長から指名されますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。立会人に指名された方は、適切な投票がなされているか、事務局とともに確認をお願いいたします。

以上でございます。

○**原田委員長** それでは、推薦する教科用図書の決定を行います。

ただいまの出席委員は13名であります。

では、投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

○**原田委員長** 投票用紙の配付漏れはありませんでしょうか。

〔「なし」「委員長」と言う人あり〕

配付漏れなしと認めます。

投票箱の改めを行います。

〔投票箱点検〕

○**原田委員長** 異状なしと認めます。

それでは、発行者ごとに右側の欄に１つずつ丸を記載してください。

〔投票用紙へ記入〕

○**原田委員長** それでは、投票に移ります。

点呼を命じます。

〔点呼に応じ順次投票〕

○**原田委員長** 投票漏れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○**原田委員長** 投票漏れなしと認めます。

投票を終了いたします。

では、開票を行います。

立会人に１号委員の田部井委員、それから２号委員の石塚委員、それから３号委員の

伊藤裕介委員を指名いたします。したがって、3委員の立会いを願います。

〔立会人立会いの上開票〕

○原田委員長 投票の結果を報告いたします。

投票総数 13票

これは先ほどの出席委員数と同じです。

そのうち有効投票 12票

無効投票 1票

以上のとおりになりました。

それでは、投票の集計結果について報告いたします。

発行者の番号、略称、選定委員としての評価について順番に申し上げます。

2番	東書	40
4番	大日本	27
11番	学図	58
17番	教出	35
61番	啓林館	39

続いて、採決に移ります。

推薦する教科用図書については、2番、東書、11番、学図、61番、啓林館とすることに賛成の委員の挙手を求めます。

〔挙手全員〕

○原田委員長 ありがとうございます。挙手は過半数を超えております。

越谷市立小中学校使用教科用図書選定委員会条例第6条第3項に基づき可決といたします。

以上で、本日予定されていた議事を終了といたします。議長の任を解かせていただきます。皆様のご協力、ありがとうございました。また、次回、よろしくお願いいたします。

○事務局 ご協力ありがとうございました。

事務連絡を2点させていただきます。1点目、次回は7月12日金曜日、13時30分から、同じ建物になりますが、越谷市増林地区センターBCが会場となります。本日投票した以外の全ての教科の投票を行います。

2点目、本日配付しました資料は、次回もお持ちくださるようお願いいたします。

傍聴の皆様にご連絡いたします。資料はお持ち帰りできませんので、恐れ入りますが、本日お渡しした全てそのまま座席に置いてお帰りくださいますようお願いいたします。

す。

以上をもちまして第3回選定委員会を終わります。ご協力ありがとうございました。

上記の内容に相違ありません。

令和6年 12 月 17 日

越谷市立小中学校使用教科用図書選定委員会 委員長

原田 隆子